

第2期
米原市子ども・子育て支援事業計画
(素案)

令和元年 8 月 29 日時点
滋賀県 米原市

ご あ い さ つ

(市長挨拶が入ります。)

目次

第1章 計画策定に当たって	1
1 計画策定の背景と目的	1
2 計画の性格と位置付け	2
3 計画の期間	3
4 計画の策定体制	3
第2章 米原市の子ども・子育てを取り巻く状況	4
1 統計データから見る子どもを取り巻く状況	4
2 幼児期の教育保育、地域子ども・子育て支援事業の進捗状況	10
3 アンケート結果から見た子どもを取り巻く状況	16
4 課題のまとめ	23
第3章 計画の基本的な考え方	26
1 子ども・子育てビジョン（基本理念）	26
2 基本目標	26
3 施策の体系（案）	32
第4章 総合的な施策の展開	33
1 子どもを生み育てることが楽しく感じられるまち	33
2 ゆとりのなかで安心して子育てのできるまち	38
3 子どもが心身ともに健やかに生まれ育つまち	40
4 子どもが心豊かにのびのびと育つまち	45
5 子どもがたくましく夢を温め育めるまち	51
第5章 量の見込みと提供体制	56
1 教育・保育提供区域	56
2 幼児期の教育・保育の量の見込みと提供体制	56
3 地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと提供体制	56
第6章 計画の推進	56
1 計画の点検・評価	56
2 子ども・子育て審議会	56
3 関係機関との連携	56
資料編	56

第1章 計画策定に当たって

1 計画策定の背景と目的

近年、わが国においては、急速な少子化の進行、核家族化や高齢化、また地域での人間関係の希薄化などにより、家庭や地域での子育て力が低下していると言われています。

急速な少子高齢化の進行は、人口構造にアンバランスを生じさせ、労働力人口の減少や社会保障負担の増加、地域社会の活力低下など、将来的に社会経済への深刻な影響を与えるものとして懸念されています。

国においては、平成24年8月に成立した子ども・子育て関連3法に基づき、平成27年度から幼児教育・保育、地域の子ども・子育て支援を総合的に推進する新たな制度（以下「新制度」という。）が施行されました。新制度のもとでは、「子どもの最善の利益」が実現される社会を目指して、質の高い幼児期の教育・保育の総合的な提供、保育の量的拡大・確保、教育・保育の質的改善、地域の子ども・子育て支援の充実などを総合的に推進していくことが必要となっています。

また、平成28年6月には「ニッポン一億総活躍プラン」が閣議決定され、「希望出生率1.8」の実現に向け、若者の雇用安定・待遇改善、多様な保育サービスの充実、働き方改革の推進、希望する教育を受けることを阻む制約の克服等の対応策を講じていくことが掲げられました。

さらに、令和元年5月には、重要な少子化対策の1つとして掲げられた、幼児教育・保育の無償化を実施するための「改正子ども・子育て支援法」が成立しました。幼児教育・保育の無償化は、幼児教育の負担軽減を図ることで、すべての子どもたちに質の高い教育の機会を保障し、生涯にわたる人格形成の基礎を培うことを目的としています。

本市では、平成27年3月に「米原市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、「夢育み 笑顔あふれる米原市～子どもとともに光るまち～」を子ども・子育てビジョンとし、家庭、地域、学校、企業、行政などがつながりを深め、地域社会全体で子育て・支援を支援し、子育て世代が子育てに喜びを感じることでできるまちづくりを推進してきました。「第2期米原市子ども・子育て支援事業計画」（以下、「本計画」という。）は、近年の社会潮流や米原市（以下、「本市」という。）の子どもを取り巻く現状、また、前回計画である「米原市子ども・子育て支援事業計画」（以下、「前回計画」という。）の進捗状況等を踏まえ、今後の幼児期の教育・保育や地域子ども・子育て支援事業を計画的に確保すること、子どもの健やかな育ちと子育てを社会全体で支援する環境を整備することを目的に策定するものです。

2 計画の性格と位置付け

(1) 法的位置付け

本計画は、子ども・子育て支援法第 61 条に基づく「市町村子ども・子育て支援事業計画」として策定するものです。

また、本計画は、次世代育成支援対策推進法の趣旨を踏まえつつ、「市町村子ども・子育て支援事業計画」の制度的枠組みに捉われない幅広い子ども・子育て支援の方向性を示すものであり、「米原市次世代育成支援行動計画」および「米原市幼保一元化推進プラン」を引き継ぐ側面も併せ持つ計画として策定します。

【子ども・子育て支援法(第六十一条)】

市町村は、基本指針に即して、五年を一期とする教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の提供体制の確保その他の法律に基づく業務の円滑な実施に関する計画(以下「市町村子ども・子育て支援事業計画」という。)を定めるものとする。

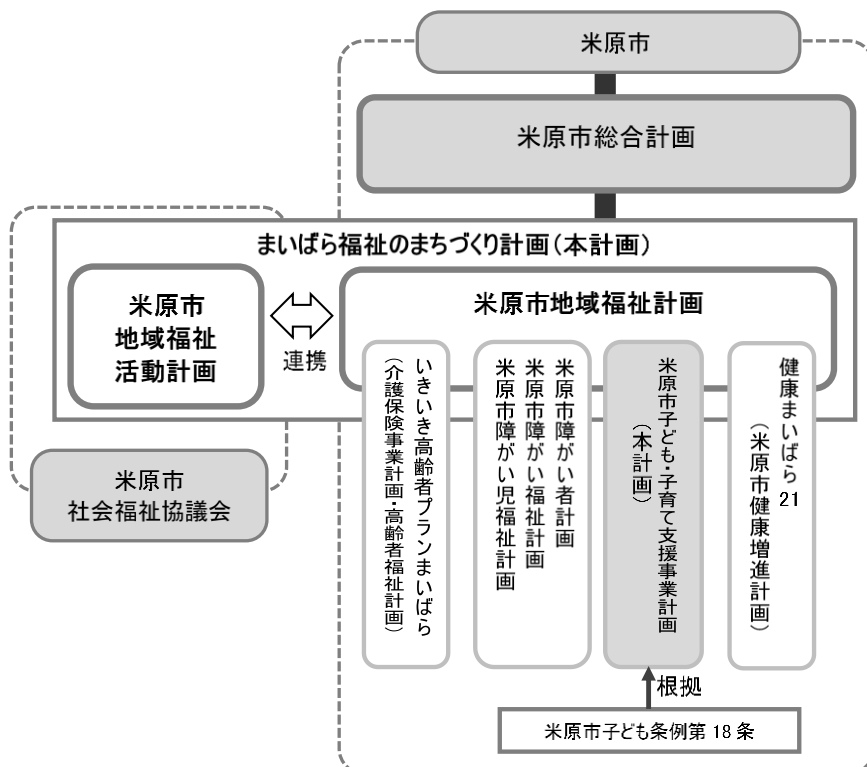
(2) 関連計画における位置づけ

本計画は、「米原市総合計画」「まいばら福祉のまちづくり計画」を上位計画とし、本市における児童福祉、母子保健・医療、教育関係などの子ども・子育てに関する諸施策を総合的に進めるための計画です。

また、子どもたちの育ちと子育てを社会全体で支援することを基本としつつ、子育て支援施策を中心として少子化対策、定住促進、地域振興などまちづくりを進めるための基礎となる推進計画として位置付けるものです。

さらに、本計画は、米原市子ども条例(平成 26 年 4 月 1 日施行)第 18 条に定められた「基本計画」としても位置付けるものです。

なお、本計画は、国・県の子ども・子育て支援の関連計画や本市の関連個別計画と整合性のとれた計画として策定するものです。



3 計画の期間

本計画は、令和2年度から令和6年度までの5年間を計画期間とするものです。

ただし、子ども・子育て支援を取り巻く社会状況の変化等により、必要に応じて、計画期間中に見直しを行う場合があります。

平成30年度	平成31年度 (令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
		第2期米原市子ども・子育て支援事業計画							
第1期						見直し	第3期計画		

4 計画の策定体制

(1) 米原市子ども・子育て審議会の設置

本計画の策定に当たっては、地域の関係団体・機関や保護者の代表等により構成される「米原市子ども・子育て審議会」を設置し、委員の皆さんから本計画に係るご意見・ご審議をいただきながら、検討・策定を進めました。

(2) アンケート調査の実施

本計画の策定に先立ち、米原市における子ども・子育てに関する実態やニーズを把握するため、就学前の子どもと小学生児童の保護者を対象とするアンケート調査を実施しました。

(3) パブリックコメントの実施

市民の皆さんから計画に対するご意見などをいただき、それを反映した計画とするためのパブリックコメントを令和●年●月●日から●月●日に実施しました。

第2章 米原市の子ども・子育てを取り巻く状況

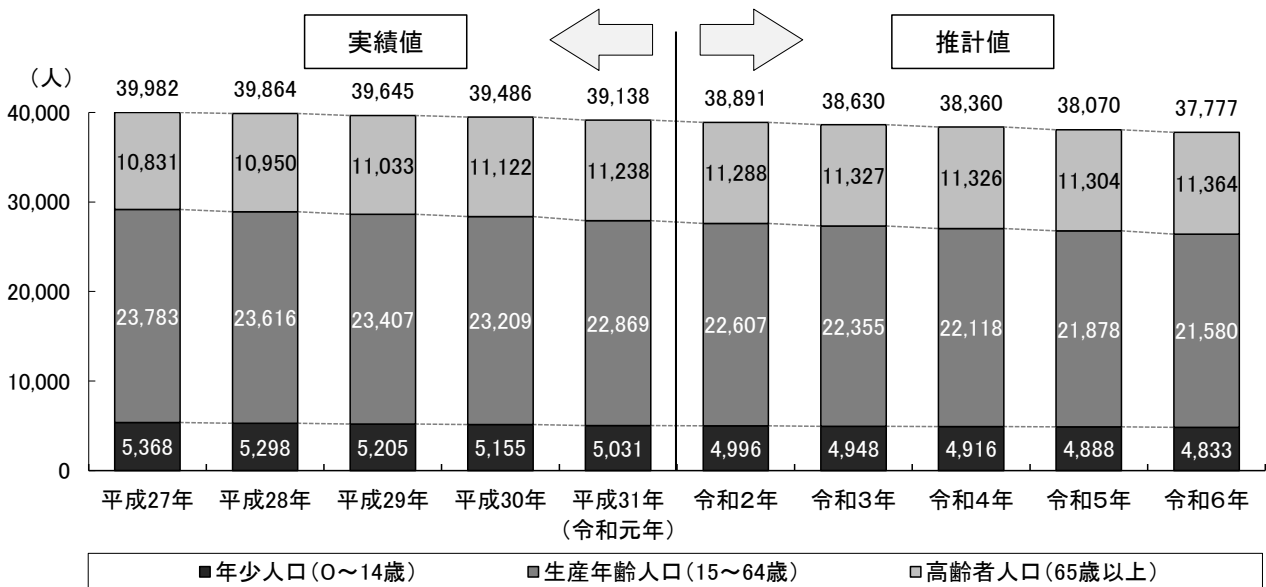
1 統計データから見る子どもを取り巻く状況

(1) 年齢3区分別の人口推移・推計

本市の総人口は平成27年以降減少傾向にあります。年齢3区分別人口の推移をみると、年少人口と生産年齢人口は減少傾向にあり、高齢者人口は大きく増加しています。推計についても同様に、年少人口と生産年齢人口は減少傾向、高齢者人口は増加傾向がそれぞれ予測されます。

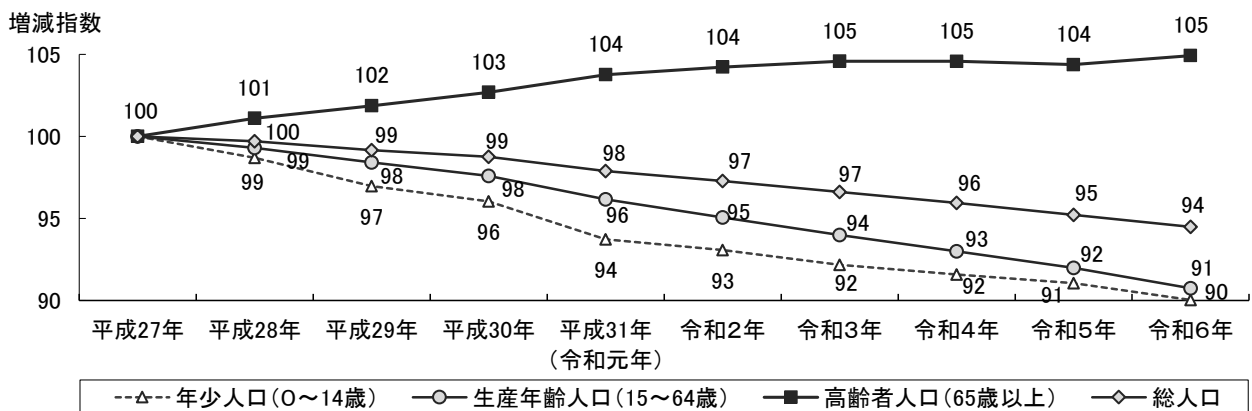
平成27年を100とした場合の増減では、年少人口の値が最も低く推移することが予測されます。

■年齢3区分別人口の推移



資料：実績値／住民基本台帳、推計値／住民基本台帳をもとにコーホート変化率法により算出

■平成27年を100とした場合の年齢3区分別人口の推移の比較

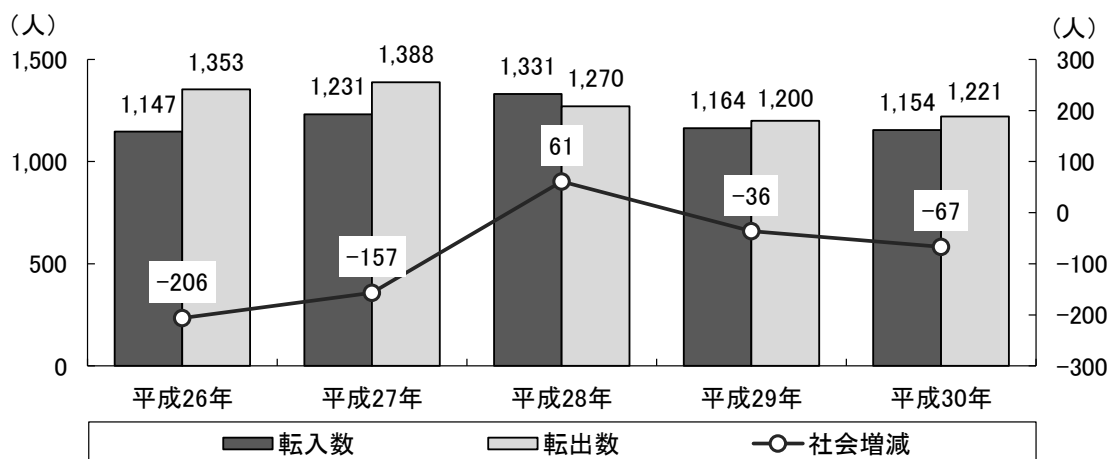


資料：実績値／住民基本台帳、推計値／住民基本台帳をもとにコーホート変化率法により算出

(2) 社会動態

転入数は年によって増減を繰り返しており、転出数は平成26年から平成28年にかけて増加傾向にあり、その後減少に転じています。社会増減は、平成28年を除いて転出が転入を上回っています。

■社会動態の推移

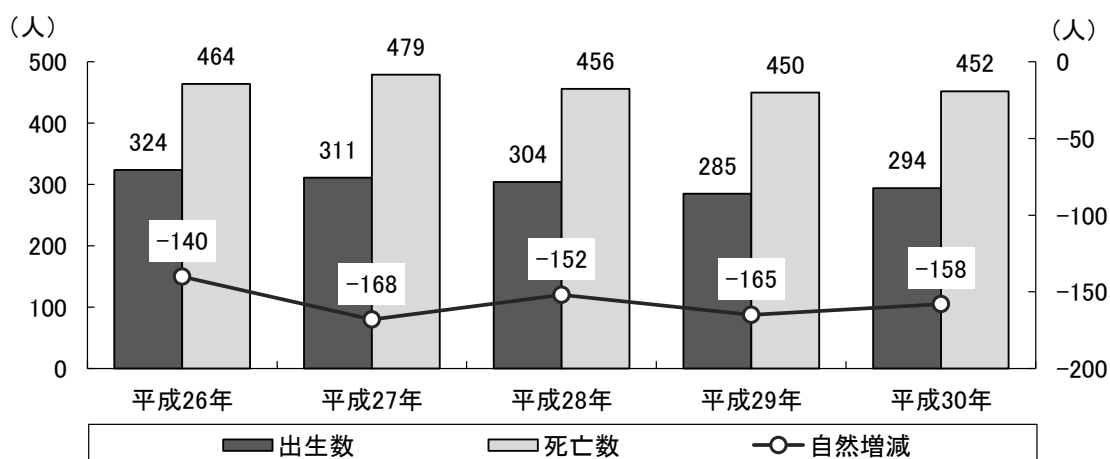


資料：滋賀県推計人口年報

(3) 自然動態

出生数は減少傾向にあります。死亡数は年によって増減を繰り返しており、概ね450人程度となっています。自然動態は、死亡数が出生数を大きく上回っています。

■自然動態の推移



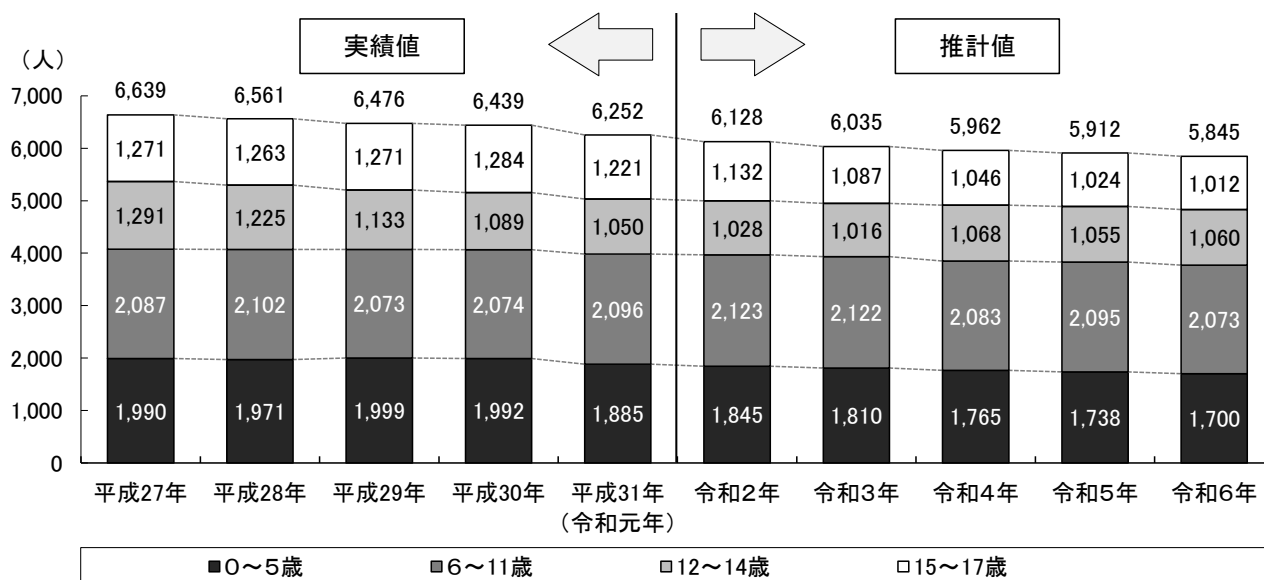
資料：滋賀県推計人口年報

(4) 子どもの人口推移・推計

18歳未満の子どもの人口は、6～11歳を除き減少傾向にあります。6～11歳は横ばいで推移しています。推計については、令和2年以降各階層で減少傾向が予測されます。

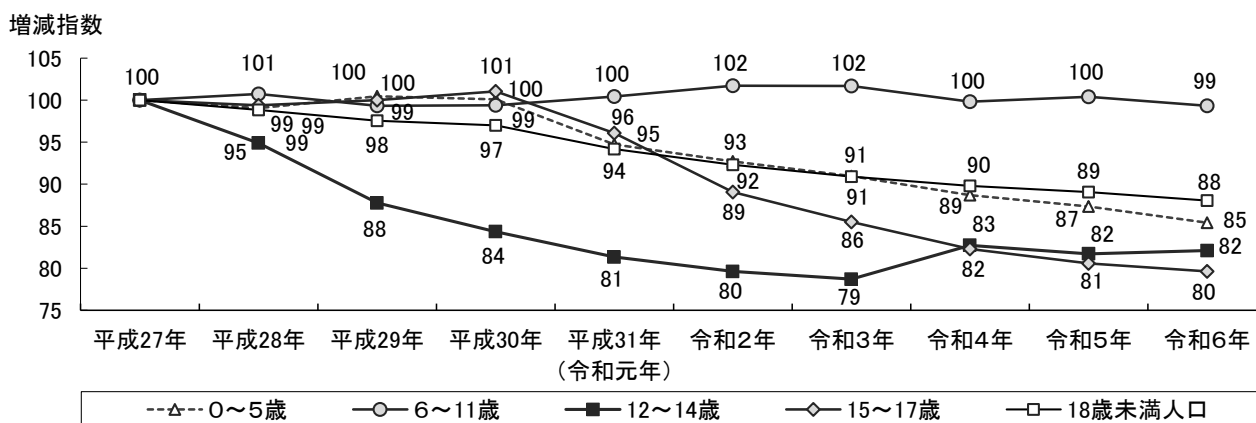
平成27年を100とした場合の増減では、令和3年までは12～14歳の値が最も低く推移し、令和4年以降は15～17歳の値が最も低く推移することが予測されます。

■子どもの人口推移



資料：実績値／住民基本台帳、推計値／住民基本台帳をもとにコーホート変化率法により算出

■平成27年を100とした場合の子どもの人口の推移の比較

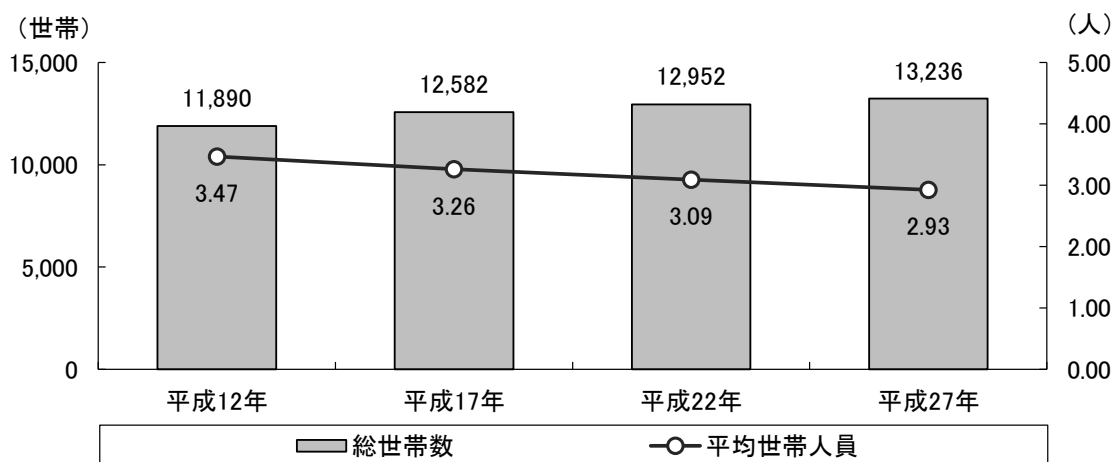


資料：実績値／住民基本台帳、推計値／住民基本台帳をもとにコーホート変化率法により算出

(5) 総世帯数及び平均世帯人員の推移

本市の総世帯数は増加で推移していますが、1世帯あたり平均世帯人員は減少傾向にあり、平成27年で2.93人となっています。

■ 総世帯数及び平均世帯人員の推移

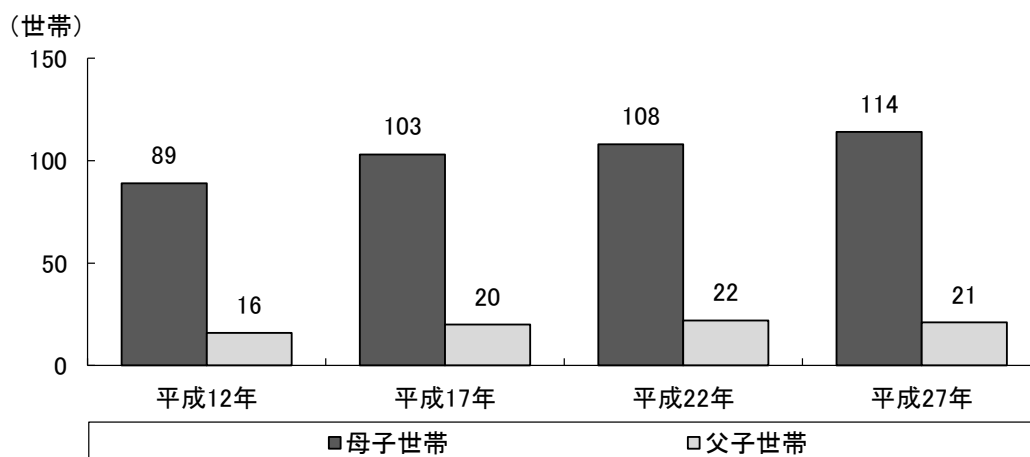


資料：国勢調査

(6) 母子世帯及び父子世帯の推移

母子世帯は平成12年以降増加しており、平成27年で114世帯となっています。父子世帯については、平成17年以降、20世帯以上で推移しています。

■ 母子世帯及び父子世帯の推移



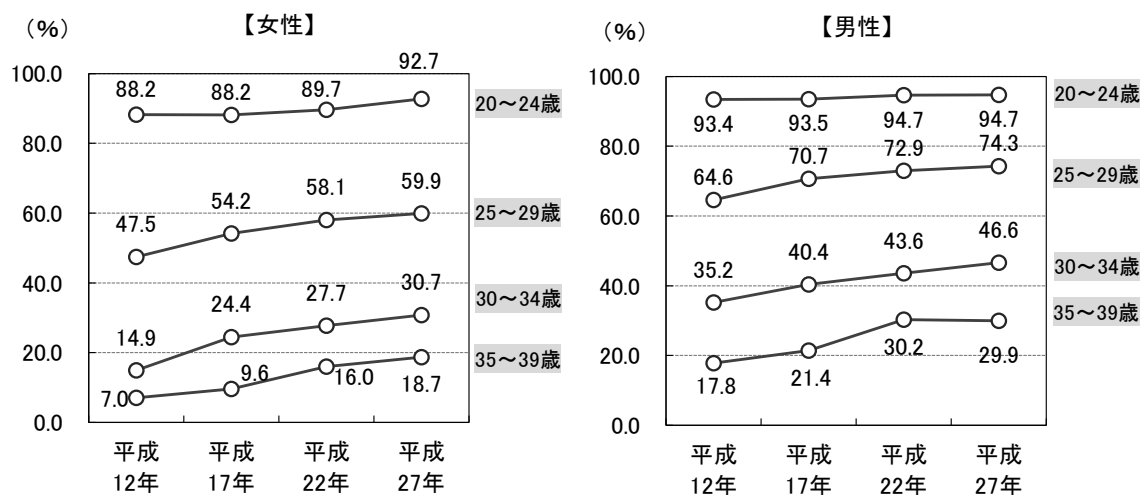
資料：国勢調査

(7) 未婚率の推移

女性の未婚率はいずれの年代においても上昇傾向にあり、特に20歳代後半から30歳代が上昇しています。

男性の未婚率は20歳代前半では概ね横ばいで推移し、その他の年代ではいずれも上昇しています。また、平成17年から平成22年にかけて、30歳代後半で大きく上昇しています。

■未婚率の推移（男女別・年齢階層別）



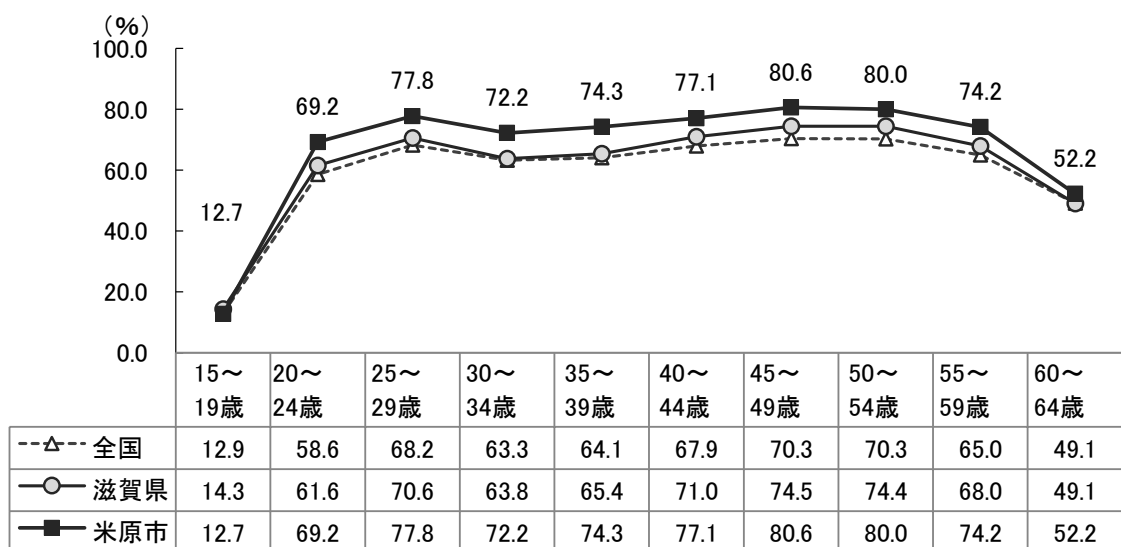
資料：国勢調査

(8) 女性の就業率

本市の女性の就業率を年齢階層別にみると、30歳代で就業率が低下するM字型となっているものの、緩やかな曲線となっています。全国・県と比較すると、本市は20歳以降の階層において就業率が高い水準となっています。

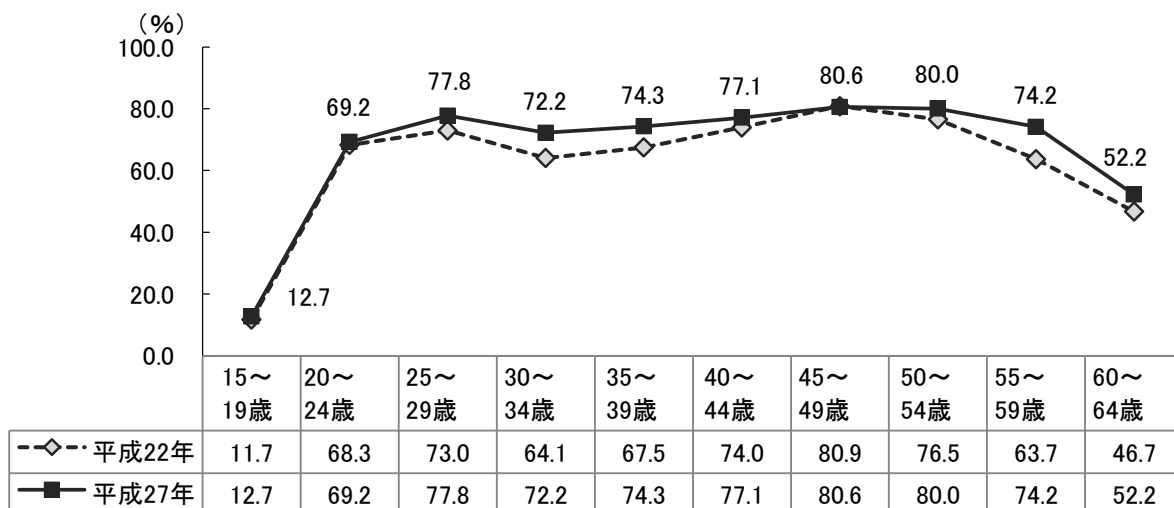
本市における平成22年と平成27年の女性の就業率を比較すると、45～49歳を除く年代で就業率が上昇しています。

■女性の年齢階層別就業率（全国・滋賀県・米原市の比較）



資料：国勢調査

■本市における女性の年齢階層別就業率比較



資料：国勢調査

2 幼児期の教育保育、地域子ども・子育て支援事業の進捗状況

(1) 幼児期の教育保育の提供状況

① 1号認定（2号認定の教育希望を含む）

1号認定の幼稚園・認定こども園短時部での受け入れについては、平成27年度以降、見込み量を下回っています。

	単位	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	平成31年度 (令和元年度)
量の見込み (必要利用定員総数)	人	382	376	383	297	258
確保の内容	人	490	505	526	385	395
実績	人	355	319	325		

② 2号認定

2号認定の保育所・認定こども園長時部での受け入れについては、平成27年度以降見込みを大きく上回っていますが、公立施設における幼保連携型認定こども園への意向を進めることで対応を図っています。

	単位	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	平成31年度 (令和元年度)
量の見込み (必要利用定員総数)	人	565	556	567	722	723
確保の内容	人	663	650	655	722	742
実績	人	655	675	710		

③ 3号認定（0歳）

3号認定（0歳）の保育所・認定こども園長時部での受け入れについては、平成27年度以降増加しています。平成28年度以降は見込みを上回っており、利用定員の弾力化等で対応を図っていますが、平成29年度では、年度途中で待機児童が発生している状況です。

	単位	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	平成31年度 (令和元年度)
量の見込み (必要利用定員総数)	人	85	79	78	32	35
確保の内容	人	71	71	73	82	85
実績	人	81	82	84		

④ 3号認定（1～2歳）

3号認定（1～2歳）の保育所・認定こども園長時部での受け入れについては、平成27年度以降増加しており、平成29年度で見込みを上回っています。

	単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度 (令和元年度)
量の見込み (必要利用定員総数)	人	337	322	318	340	357
確保の内容	人	286	289	291	340	357
実績	人	313	318	341		

(2) 地域子ども・子育て支援事業の提供状況

① 利用者支援に関する事業

利用者支援に関する事業は、平成29年に米原げんきステーション内に母子保健型の子育て世代包括支援センターと基本型の支援センターを開設しました。

	単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度 (令和元年度)
量の見込み (必要利用定員総数)	か所	1	1	1	2	2
確保方策	か所	0	1	1	2	2
実績	か所	0	0	2		

② 地域子育て支援拠点事業

地域子育て支援拠点事業については、4地域の地域子育て支援センターがあり、平成27年度以降見込みを大きく上回っています。

	単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度 (令和元年度)
量の見込み(利用者数)	人日	4,227	4,069	4,030	14,000	14,000
確保方策	か所	4	4	4	4	4
実績(利用者数)	人日	13,290	14,979	12,043		
実績(開設数)		4	4	4		

③ 妊婦健康診査

妊婦健康診査については、利用者数は年によって増減があります。平成 29 年度は 1 人当たりの健診回数が微増し、12 回となっています。

	単位	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (令和元年度)
量の見込み(利用者数)	件	4,186	4,116	4,088	4,060	3,990
量の見込み (1人当たりの健診回数)	回	14	14	14	14	14
実績(利用者数)	件	3,511	3,311	3,515		
実績 (1人当たりの健診回数)	回	11.5	11.5	12		

④ 乳児家庭全戸訪問事業

乳児家庭全戸訪問事業については、利用者数は年によって増減があります。訪問率は 97%前後で推移しています。

	単位	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (令和元年度)
量の見込み(利用者数)	件	299	294	292	290	285
量の見込み(訪問率)	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
実績(利用者数)	件	301	281	304		
実績(訪問率)	%	96.8	98.6	96.5		

⑤ 養育支援訪問事業等

養育支援訪問事業等については、訪問世帯数は年によって増減があります。

	単位	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (令和元年度)
量の見込み(訪問世帯数)	件	30	30	30	30	30
確保方策	件	30	30	30	30	30
実績(訪問世帯数)	件	8	17	10		
実績(延訪問回数)	回	64	35	36		

⑥ 子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター）

子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター）については、平成 27 年以降会員数が増加しています。

	単位	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (令和元年度)
量の見込み	人日	40	46	44	240	240
確保方策	人日	10	20	30	240	240
実績(援助回数)	人日	29	227	162		
実績(会員数)	人	79	109	137		

⑦ 一時預かり事業

■幼稚園における一時預かり（1号認定による利用）

幼稚園における一時預かり（1号認定による利用）については、3か所で実施しており、年間の延べ利用日数は年によって増減しています。

	単位	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (令和元年度)
量の見込み	人日	400	390	400	400	380
確保方策	人日	200	250	300	350	400
	か所	3	3	3	5	5
実績	人日	144	41	63		
	か所	3	3	3		

■幼稚園以外における一時預かり

幼稚園以外における一時預かりについては、一時保育は年によって増減しており、ファミリー・サポート・センターは増加傾向にあります。

	単位	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (令和元年度)	
量の見込み(一時保育、ファミリー・サポート・センター)	人日	1,170	1,140	1,140	1,140	1,110	
確保方策	一時保育	人日	700	750	800	850	900
	ファミリー・サポート・センター	人日	50	100	150	200	250
実績	一時保育	人日	560	624	605		
	ファミリー・サポート・センター	人日	11	62	111		
	計	人日	571	686	716		

⑧ 時間外保育事業

時間外保育事業については、平成 29 年に 10 か所の整備を予定していましたが、朝、夕の人材確保等が課題となり、7 か所での実施となっています。利用人数については、見込みを下回って推移しています。

	単位	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (令和元年度)
量の見込み	人	344	335	337	335	327
確保方策	人	100	150	250	300	350
	か所	6	6	10	9	10
実績	人	120	269	126		
	か所	6	6	7		

⑨ 病児・病後児保育事業

病児・病後児保育事業については、平成 28 年以降増加していますが、見込みを大きく下回っており、事業の周知等が課題となっています。

	単位	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (令和元年度)	
量の見込み	人日	2,432	2,369	2,381	2,364	2,306	
確保方策	病児・病後児対応型	人日	200	1,500	1,500	500	500
	体調不良児対応型	人日	-	-	-	1,000	1,000
実績	病児・病後児対応型	人日	0	308	332		
	体調不良児対応型	人日	-	-	670		

⑩ 放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）

放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）については、平成 27 年以降見込みを大きく上回っています。長期休業中の利用者の増加に対応するため、学校や公民館等の空き施設を活用し、希望者全員を受けいれています。

		単位	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (令和元年度)
量の見込み	低学年	人	338	351	347	546	590
	高学年	人	188	181	174	325	351
	計	人	526	532	521	871	941
確保方策	登録児童数	人	500	500	520	871	941
	施設数	か所	9	9	9	9	9
実績	低学年	人	389	491	546		
	高学年	人	191	208	325		
	計	人	580	699	871		
	実施箇所数	か所	9	9	9		

⑪ 実費徴収に係る補足給付事業

実費徴収に係る補足給付事業については、平成 28 年度に実施要綱を作成し、事業に取り組んでいますが、平成 29 年度は対象となる世帯がなかったため、実績がありません。

	単位	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (令和元年度)
量の見込み	件	-	-	-	1	1
確保方策	件	-	-	-	1	1
実績	件	-	-	0		

3 アンケート結果から見た子どもを取り巻く状況

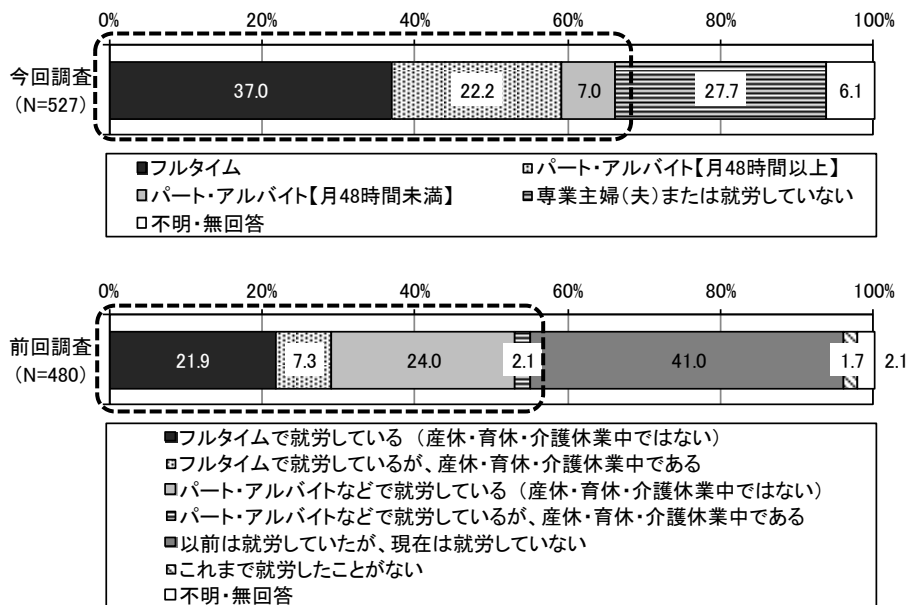
(1) 母親の就労状況について

母親の就労状況については、就学前児童では「フルタイム」が37.0%と最も高く、次いで「専業主婦（夫）または就労していない」が27.7%となっています。

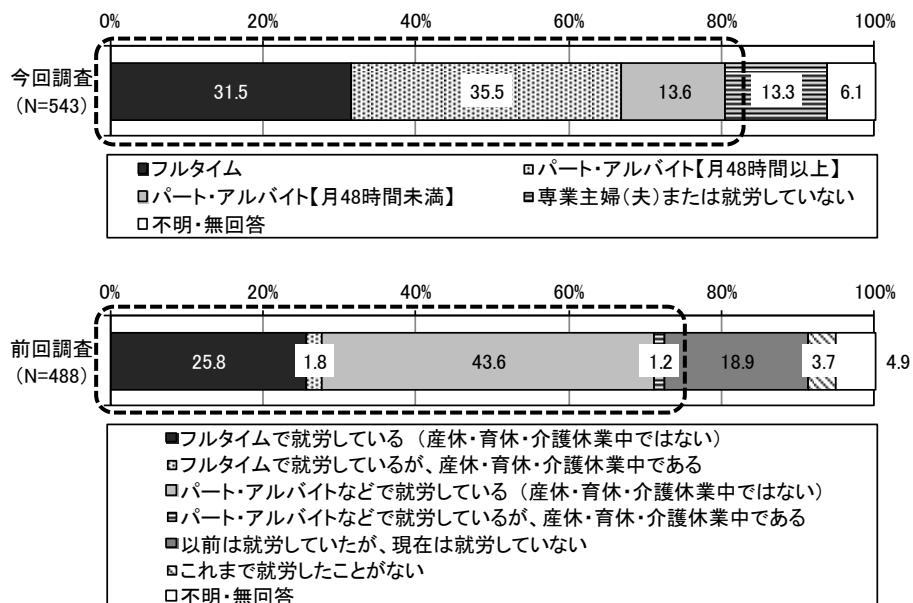
小学生では、「パート・アルバイト【月48時間以上】」が35.5%と最も高く、次いで「フルタイム」が31.5%となっています。

前回調査と比較すると、就学前児童、小学生ともにフルタイムまたはパートタイムで就労している人の割合が増加しています。

■就学前児童



■小学生

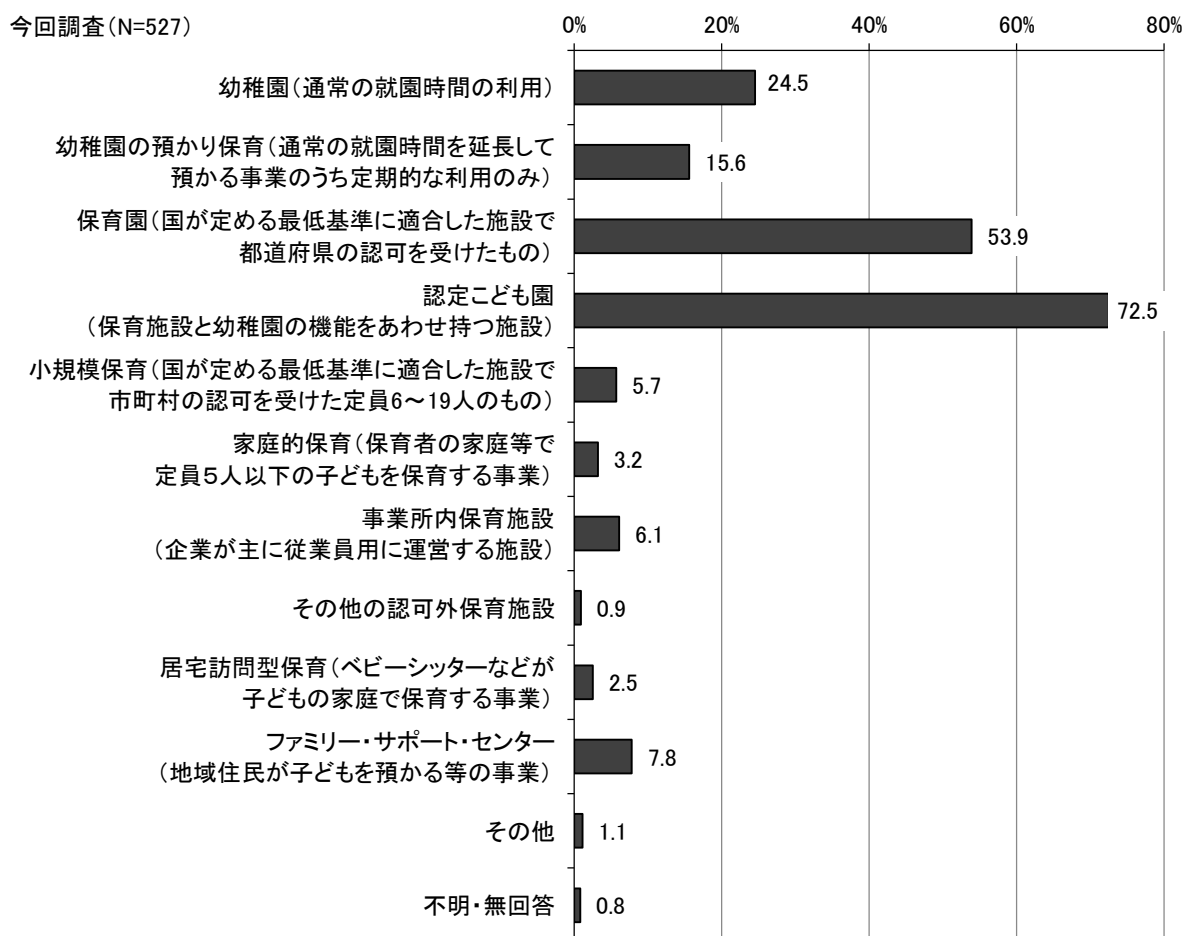


(2) 定期的な幼稚園・保育所・認定こども園等の利用希望について

① 平日の定期的な幼稚園・保育所・認定こども園等の利用希望

現在の利用状況にかかわらず、「定期的に」利用したいと考える事業については、「認定こども園（保育施設と幼稚園の機能をあわせ持つ施設）」が72.5%と最も高く、次いで「保育園（国が定める最低基準に適合した施設で都道府県の認可を受けたもの）」が53.9%、「幼稚園（通常の就園時間の利用）」が24.5%となっています。

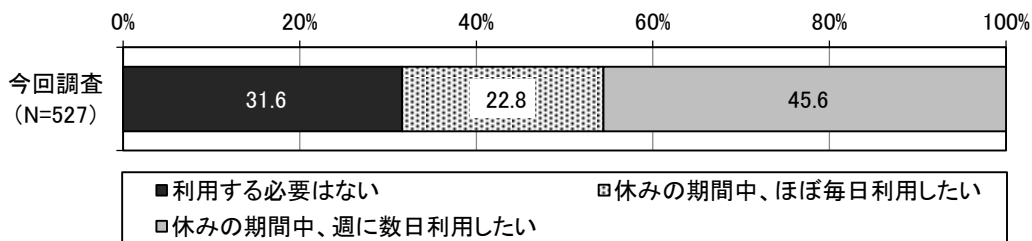
■ 就学前児童



② 幼稚園が長期休園中の教育・保育事業の利用希望

長期休暇中の教育・保育事業の利用については、「休みの期間中、週に数日利用したい」が45.6%と最も高く、次いで「利用する必要はない」が31.6%となっています。

■就学前児童



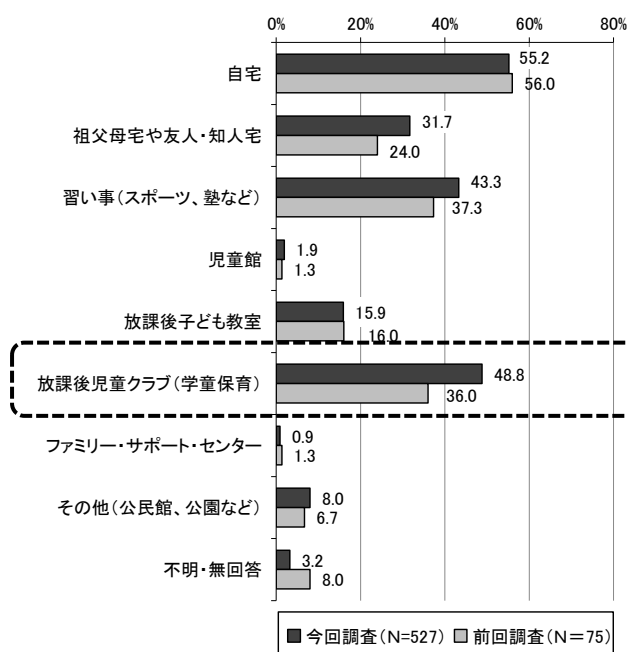
(3) 放課後の過ごし方について

① 放課後の過ごし方の希望について

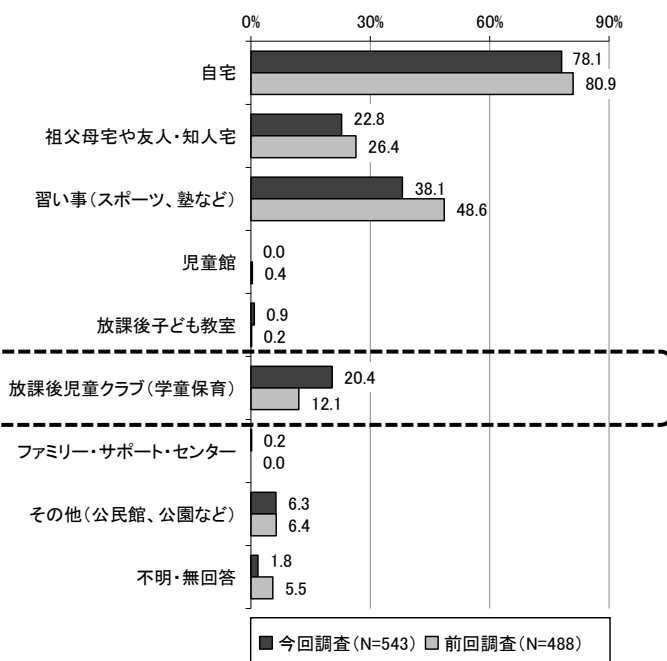
就学前児童が小学校へ入学後、放課後の時間を過ごさせたい場所については、低学年の間は、「自宅」に次いで「放課後児童クラブ（学童保育）」が高くなっています。前回調査と比較すると、12.8ポイント高くなっています。

小学生では、「自宅」に次いで「習い事（スポーツ、塾など）」が高くなっていますが、前回調査と比較すると、「習い事（スポーツ、塾など）」が9.6ポイント低く、「放課後児童クラブ（学童保育）」が8.3ポイント高くなっています。

■就学前児童



■小学生

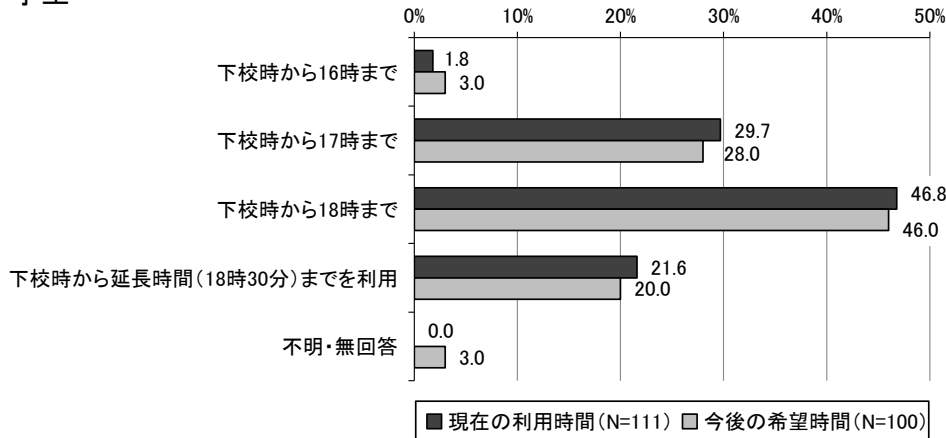


② 放課後児童クラブ（学童保育）の利用時間

現在、放課後児童クラブ（学童保育）で過ごしている平日の利用時間については、「下校時から18時まで」が46.8%と最も高く、次いで「下校時から17時まで」が29.7%となっています。

今後、放課後児童クラブ（学童保育）で過ごさせたい平日の利用時間については、「下校時から18時まで」が46.0%と最も高く、次いで「下校時から17時まで」が28.0%となっており、現在の利用状況と同様の傾向にあります。

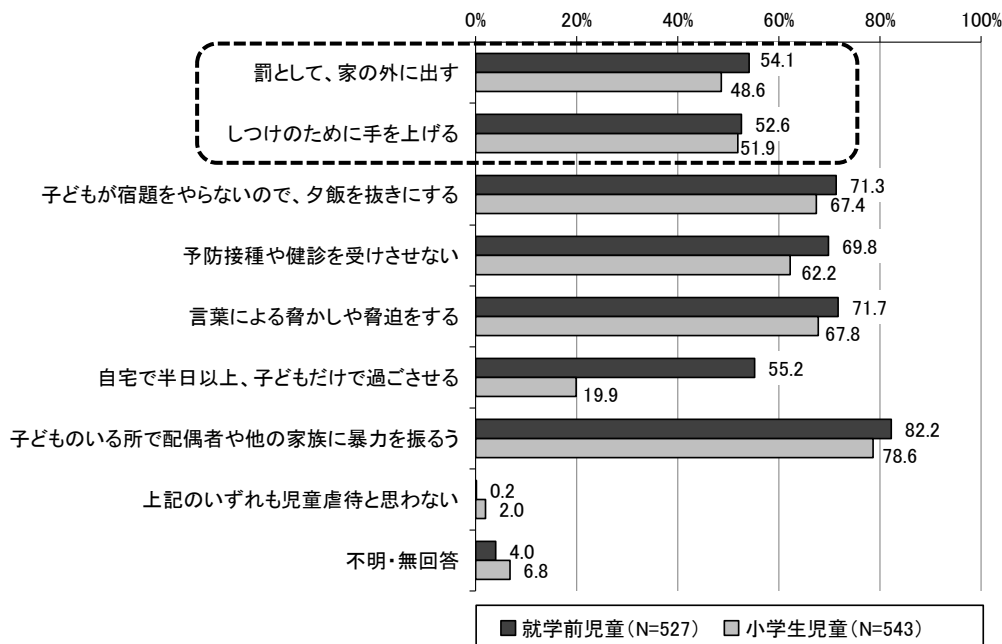
■小学生



(4) 虐待や子育て不安について

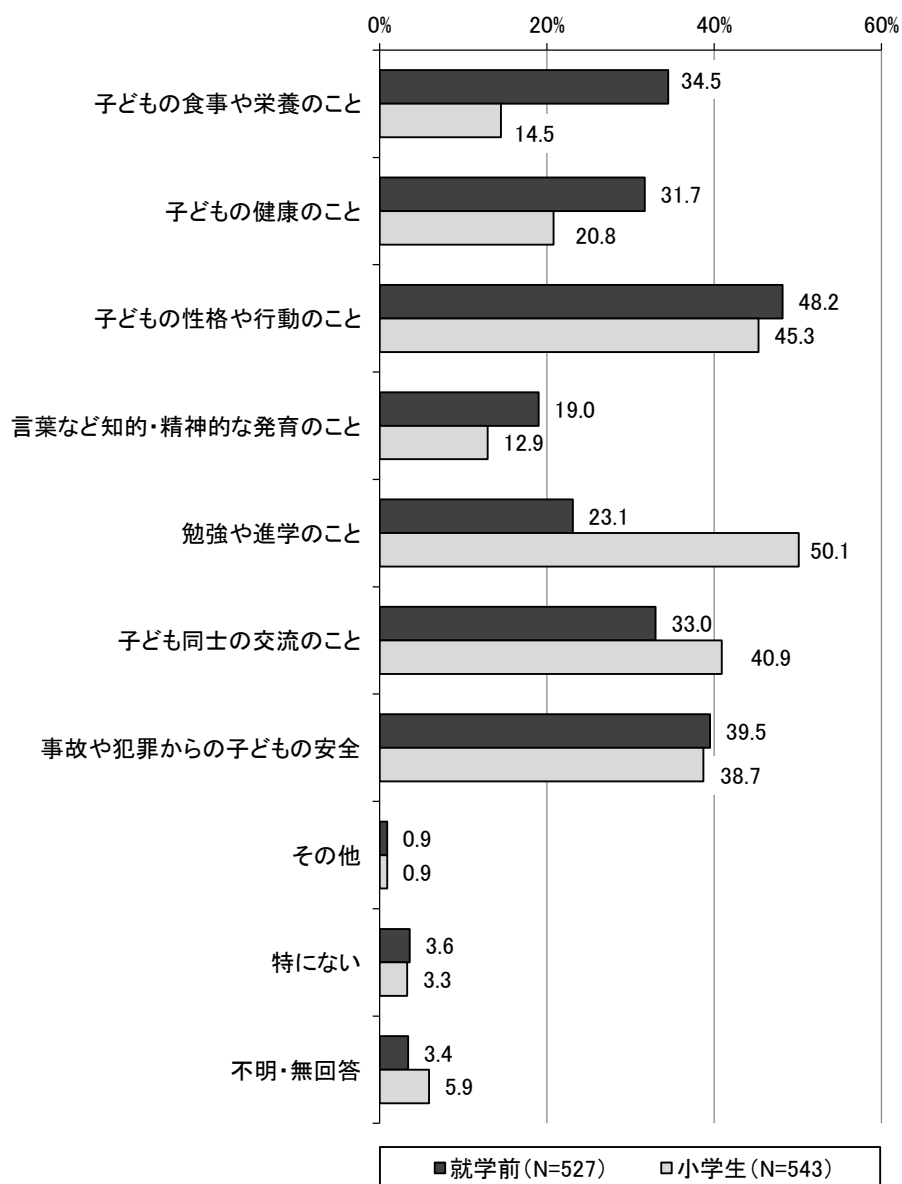
① 児童虐待だと感じるもの

児童虐待だと感じるものについては、就学前児童、小学生ともに「子どものいる所で配偶者や他の家族に暴力を振るう」が最も高く、次いで「言葉による脅かしや脅迫をする」となっています。また、就学前児童、小学生ともに「しつけのために手を上げる」「罰として、家の外に出す」を選択した方は半数程度に留まっています。



② 子育ての不安や悩み（子どものこと）

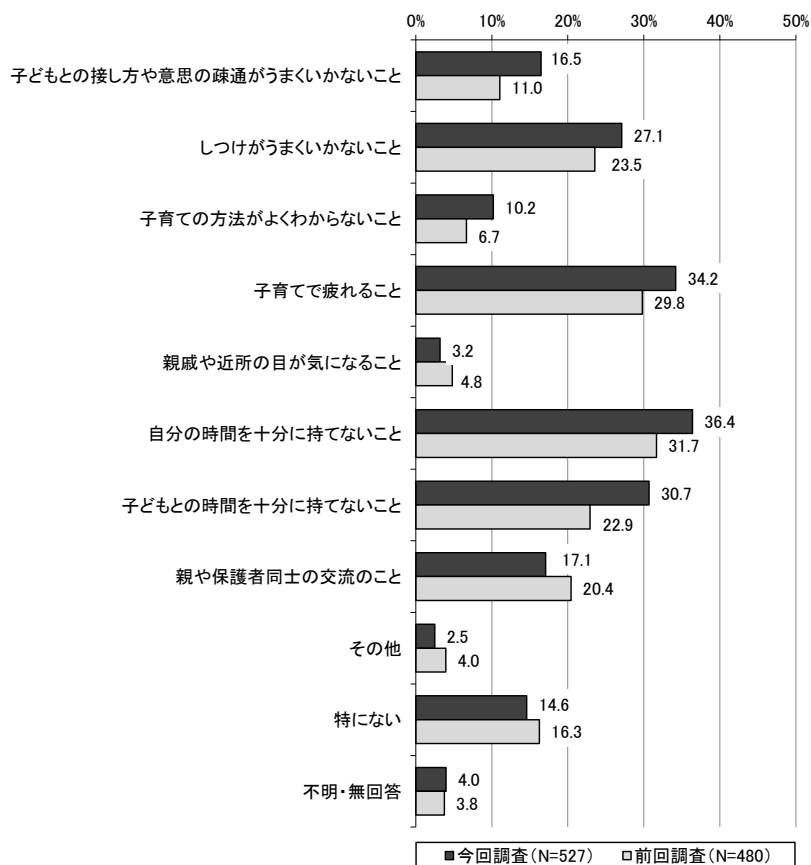
子育てに関する子どものことへの不安や悩みについては、就学前児童では、「子どもの性格や行動のこと」が48.2%と最も高く、次いで「事故や犯罪からの子どもの安全」が39.5%、「子どもの食事や栄養のこと」が34.5%となっています。小学生では、「勉強や進学のこと」が50.1%と最も高く、次いで「子どもの性格や行動のこと」が45.3%、「子ども同士の交流のこと」が40.9%となっています。



③ 子育ての不安や悩み（自分のこと）

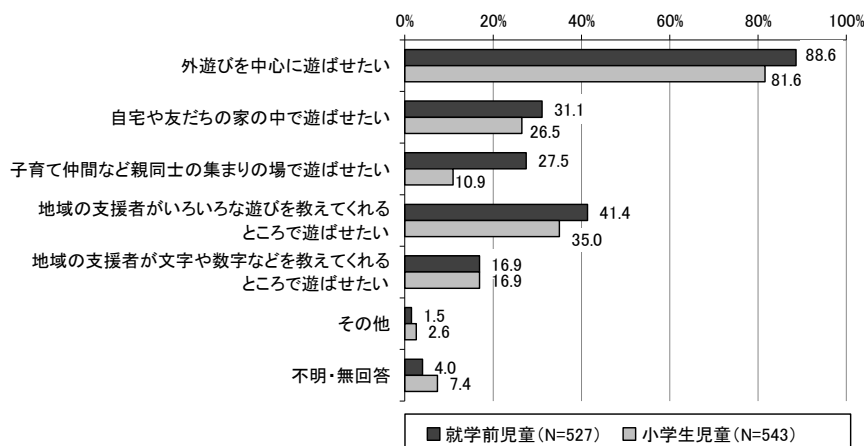
就学前児童の子育てに関する自分のことへの不安や悩みについては、「自分の時間を十分に持てないこと」が最も高く、次いで「子育てで疲れること」、「子どもとの時間を十分に持てないこと」となっています。

前回調査と比較すると、「子どもとの時間を十分に持てないこと」が7.8ポイント高くなっています。



(5) 地域の中で子どもをどのような場所で遊ばせたいか

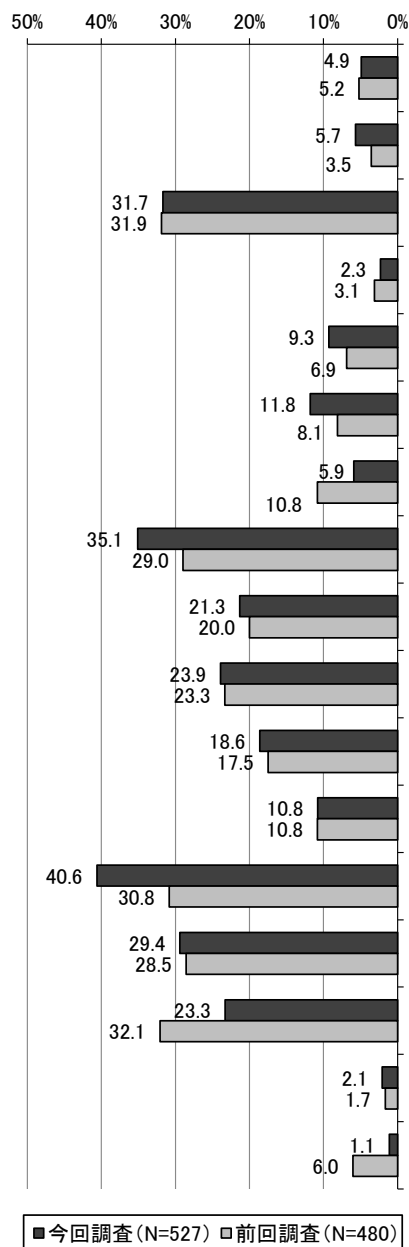
お子さんを遊ばせたい場所については、就学前児童、小学生ともに「外遊びを中心に遊ばせたい」が最も高く、次いで「地域の支援者がいろいろな遊びを教えてくれるところで遊ばせたい」となっています。



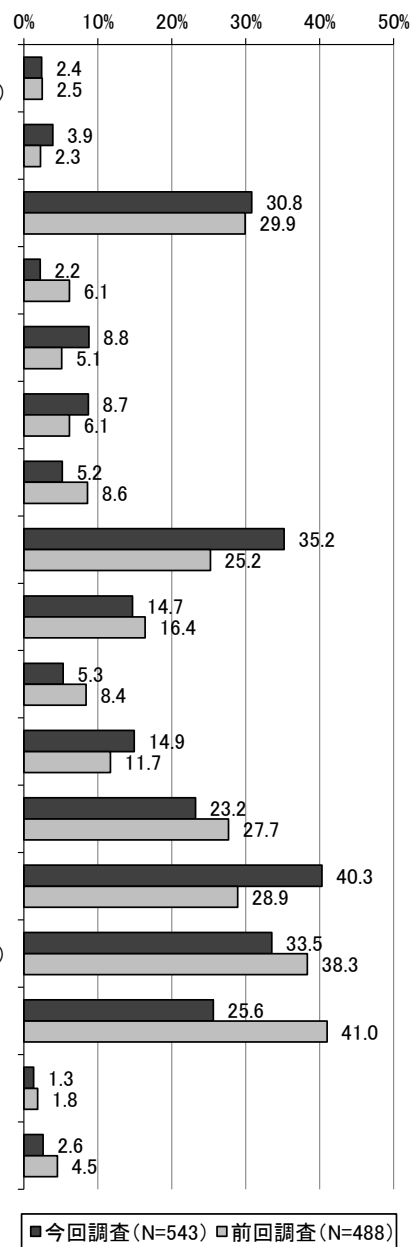
(6) 子育てしやすいまちとなるために重要だと思うこと

子育てしやすいまちとなるために重要だと思うことでは、就学前児童、小学生ともに「遊び場（公園や施設）の充実」「仕事と子育てが両立できる職場環境」が上位にあがっています。

■就学前児童



■小学生



4 課題のまとめ

(1) 子育ての支援充実と支援を要する家庭への支援について

- 保護者等の就労状況の変化などにより、本市においても、保護者の就労率の向上等により平日の定期的な教育・保育の利用希望や、放課後児童クラブ（学童保育）の利用希望が高まっています。
- 保育事業については、一時預かり等人材不足のために計画通りの整備が困難であったサービスもあり、保育人材の確保は、多様な保育サービスの充実を阻害する課題となっています。
- アンケート調査では、就学前児童の子育てに関する自分のことへの不安や悩みについて、「自分の時間を十分に持てないこと」が最も高く、次いで「子育てで疲れること」、「子どもとの時間を十分に持てないこと」となっており、保護者自身も子育てと仕事等とのバランスについて悩みを持っている様子が見えます。
- 国の調査では、7人に1人の子どもが相対的な貧困状況にあり、特に、ひとり親家庭では半数以上が相対的な貧困状況に該当していると報告されています。また、近年、子どもに対する虐待やいじめ、及びそこから派生する子ども・子育て世帯の社会的な孤立等が大きな問題となっており、本市においても、その実態等について把握し、対策を推進することが必要とされています。

対策と方向性

放課後児童クラブ（学童保育）や一時預かり等、ニーズの高い多様な保育サービスの充実にあたって、人材の確保に取り組む必要があります。

また、貧困などの課題を抱える子どもや、障がいのある子どもなど、家庭環境や個々の事情・状況に応じた適切な支援を求める子どもへの対応も求められています。複雑多様化する課題に対応できる支援体制を整備することが求められます。

(2) 安心・安全について

- 本市では、交通安全対策として、防犯パトロール隊による通学時の見守り等を行っていますが、人口減少や高齢化の影響から、担い手の確保が課題となっている地域があります。
- アンケート調査では、子育てしやすいまちとなるために重要だと思うことについて、就学前、小学生ともに「子どもの安全の確保（事故や犯罪など）」が3割前後と、比較的高い項目となっており、引き続き、子どもを事故や犯罪から守る地域づくりが求められます。
- 児童虐待だと感じるものについては、「子どものいる所で配偶者や他の家族に暴力を振るう」が8割以上と高い一方で、「しつけのために手を上げる」「罰として、家の外に出す」を選択した方は半数程度に留まり、虐待への認識についても差があることが分かります。

対策と方向性

全国における通学路の事故を踏まえ、安全な道路交通環境の整備とともに、交通安全規範・行動の市民への啓発や子どもに対する教育・学習活動の充実が必要です。

虐待については、子育ての不安感が高い人ほど、虐待への意識が低い傾向にあります。虐待の未然防止のためにも、子育て不安の軽減・解消に積極的に取り組むことが求められます。

(3) 妊娠期からの切れ目の無い支援について

- 本市では、保健センターや子育て世代包括支援センター、発達支援センターなど、多様な機関がその専門性を活かして、子育て世帯の相談支援に取り組んでいます。アンケート調査を見ると、保健センターや子育て支援センターは認知度が高く、相談先として浸透している様子が見えませんが、平成29年に設置した「子育て世代包括支援センター」を知っている人は3割程度に留まっており、さらなる認知度の向上が必要となっています。
- 「乳児家庭全戸訪問事業」は、97%前後と高い訪問率となっています。特に自ら出向くことが困難な保護者に対しては、訪問型（アウトリーチ型）の事業を通して、育児に不安を感じる保護者の早期発見につなげていくことが必要です。
- アンケート調査では、子どものことに関する不安や悩みについて、就学前児童では「子どもの性格や行動のこと」が最も高く、「子どもの食事や栄養のこと」も上位となっており、子どもの発育や食事等の健康、栄養に関する悩みが見られます。

対策と方向性

母子健康手帳の交付時や乳幼児健康診査時等の機会を活用し、支援が必要な保護者または子どもを早期に発見し、保護者や子どもの状況に応じた支援を行うことが重要です。また、子どもに対して継続的に支援を実施するため、子育て世代包括支援センターについての周知と関係する機関等との連携を強化し、適切に対応することが必要です。

(4) 幼小の連携について

- 乳幼児期の教育・保育について、本市では、乳児保育の在り方や、長時部保育の在り方等、子どもの育ちをつなぐ視点で園内研究会を開催し、教育・保育の質向上に努めています。第2期計画では、幼児教育の専門的な知見や豊富な実践経験のある人材が、教育内容や指導方法、環境の改善等について指導を行う体制づくりが求められており、本市においても、教育・保育の質の向上に向けた取組の充実が求められます。
- アンケート調査では、子育てについての悩みについて、小学生児童で「勉強や進学に関すること」が最も高く、次いで「子どもの性格や行動のこと」が高くなっています。子どもの発達や学校教育との学びの連続性を確保する、幼小連携の強化が求められています。

- 子どもの健全育成について、本市では、様々な問題を抱え、学校生活になじめない児童・生徒に対して、専門知識や経験を持ったスクールカウンセラーによるカウンセリングやスクールソーシャルワーカーによる相談、子どもケアサポーターによる別室登校児童生徒の指導・支援を行っています。支援を必要とする子どもの増加や背景要因の多様化・複雑化しており、集団生活になじめない子どもへの支援の充実と子どもの健やかな成長を支える環境づくりを進めることが求められます。

対策と方向性

教育・保育の利用にあたっては、子どもの最善の利益を確保するという視点に立ち、すべての子どもに質の高い幼児期の教育・保育を提供できる体制を整備することが重要です。

また、保育所・幼稚園・小学校がそれぞれの教育・保育実践の課題の共有や今後のあり方の検討等を行い、保・幼・小の連携強化や保育士・教職員の資質の維持・向上につなげるとともに、家庭、学校、地域が一層連携することが重要です。

(5) 子どもの遊び場の充実について

- 地域の中で子どもをどのような場所で遊ばせたいかについて、アンケート調査結果からは、「地域の支援者がいろいろな遊びを教えてくれるところで遊ばせたい」という回答が第2位となっており、教育・保育の現場や家庭以外の場所でも、地域の人が見守る中での「居場所」を求める人が多くなっています。
- アンケート調査結果からは、子育てしやすいまちとなるために重要だと思うことについて、「遊び場（公園や施設）の充実」が高くなっています。子どもの育ちの観点からも、子どもが主体性を持って遊ぶことができ、家庭や地域の子育て力を発揮することのできるような遊び場の充実が重要となっています。

対策と方向性

地域の様々な子育て支援者、団体等が、子ども・子育て支援の重要性に対する関心や理解を深め、地域の子育て力を育て、それぞれの役割を果たしながら、地域ぐるみで子育て支援を進めることが重要です。また、子育て家庭が本市で子育てを行うことへ喜びを感じ、子育てにおいて第一義的責任を担う「家庭」での教育力・子育て力を育て、楽しく子育てができる米原市を目指した取り組みが必要です。

第3章 計画の基本的な考え方

1 子ども・子育てビジョン（基本理念）

第1期計画である「米原市子ども・子育て支援事業計画」は子どもたちが健やかに生まれ育ち夢を育むことのできるまちを目指すものとして策定し、家庭、地域、学校園、企業、行政などがつながりを深め、地域社会全体で子育て・子育てを支援し、子育て世代が子育てに喜びを感じることのできるまちづくりを推進してきました。

第2期となる本計画においても、本市におけるこれまでの取組を踏まえつつ、さらに強化、充実を進める観点から、第1期計画の基本理念を継承するものとし、次のように基本理念を定めま

夢育み 笑顔あふれる米原市 ～子どもとともに光るまち～

2 基本目標

基本理念とともに第1期計画の5つの基本目標を継承し、基本理念の実現に向けて計画を推進します。

基本目標1 子どもを生き育てることが楽しく感じられるまち

子育てについての第一義的責任がある保護者・家庭が、子どもとの生活に喜びと安らぎを感じ、楽しく子育てができるよう、結婚、妊娠、出産、子育てまで切れ目のない支援を行うとともに、子育てのストレスや子育て不安の解消に向けた相談体制の充実、喜びや不安を分かち合う子育ての仲間づくりへの支援を行います。

また、ひとり親家庭、障害のある子どもの家庭、外国にルーツを持つ子どもの家庭、生活に困窮している家庭等、配慮や支援が必要な家庭を含むすべての子育て家庭が、安心やゆとり、楽しみをもって愛情深く子育てができるように、子育て家庭の自立に向けた子育て支援を充実させます。

基本目標2 ゆとりのなかで安心して子育てのできるまち

子どもや妊婦・子育て家庭が安心・安全に生活できるまちづくりに向け、公共施設に置ける配慮、交通安全や犯罪防止対策のための見守りやパトロール体制を強化します。

また、児童虐待については、子育てに対する不安や負担を感じ、誰にも相談できずに抱え込んでしまうことから児童虐待を起こしてしまう、生活環境等におけるさまざまな福祉的な課題から児童虐待につながってしまうなど、児童虐待のケースも複雑化・多様化する中、保健、医療、福祉、教育等の関係機関の連携強化や相談窓口の専門性の向上等により、虐待ハイリスク家庭の把握や未然防止に努めます。

基本目標3 子どもが心身ともに健やかに生まれ育つまち

子どもが心身ともに健やかに生まれ育つことができるよう、妊娠期、出産期、乳幼児期のそれぞれの発達段階に応じた、きめ細かな母子保健サービスの提供を行います。

全ての子どもの健やかな成長には、乳幼児期の子どもとの愛着形成・基本的な生活習慣の確立が最も重要であり、子どもの成長段階に応じた、育児に関する情報提供や相談体制の充実を進めます。

基本目標4 子どもが心豊かにのびのびと育つまち

保育所、幼稚園、認定こども園、小・中学校と家庭や地域社会との連携を進め、子どもがのびのびと育つ地域・家庭教育環境づくりを推進するとともに、地域における交流活動、文化芸術活動等、豊かな心と感性を醸成する施策も推進します。生まれた子どもが大人になっていく過程において切れ目のない支援を行い、豊かな心と感性を身に付けた次世代の親につなげていきます。

また、大人に至る人間形成においては、子どもの発達特性を生かして、発達段階に応じた支援を行い、生きる力を育む教育が必要です。

子どもの基礎体力や基礎学力の向上のため、日常的な生活習慣の体得や感性を育てる幼児教育、ボランティア活動や体験学習を通して生活力を育てる学校教育の充実を図ります。そのために、教育関係施設の充実、いじめ・不登校などの問題に対する各種相談体制の充実など、教育環境の整備を進めます。

基本目標5 子どもがたくましく夢を温め育めるまち

子どもは親子のつながりで生まれ、お年寄りから子どもまで異世代間での交流などを通して、人と人とのつながりの中で身に付けていくべき協力・協調、思いやりなどの人間らしさが培われるように、家庭以外にも子どもたちの居場所を確保していくことが望まれています。

そのため、子どもの多様な体験・交流活動を充実させ、子どもが心身ともにたくましく健やかに育てる遊び場の整備・充実に取り組みます。子どもや家族が安心して遊び、憩える場の整備を推進し、様々な機会を通して啓発に努めるとともに、学校、地域、家庭が協力し、異年齢の子どもや大人と出会い、人間関係を築き、様々な感動を体験できる機会を提供していきます。

3 重点施策

5つの基本目標を具現化した施策として、5つの重点施策を定めます。重点施策については、施策を代表する重点事業を設定し、本計画を推進します。

重点施策1

子育て支援の充実と子どもの貧困対策

核家族化や地域コミュニティの希薄化等を背景とし、子どもを育てることに対する不安や悩みをもつ保護者が依然として多くいます。

アンケート調査では、子育てを楽しんでいると感じにくい人の場合は、子育ての負担が母親に偏りがちであり、配偶者・パートナーと子育てについて十分に相談できていない傾向にあることから、母親のみならず子育て家庭全体の子育て力を高めるような支援が必要となっています。

また、障がいのある子どもや外国にルーツを持つ子ども、貧困の状況にある子どもなど、家庭環境や個々の事情・状況に応じた支援を必要とする子どもや家庭への対応が求められています。特に、子どもの貧困対策については、保護者の経済的な困難が、進学や様々な社会経験の機会の損失、生活の余裕の無さから人間関係に問題が生じるなど、子どもにさまざまな影響を及ぼすことが指摘されており、本市においても、こうした貧困の現状を把握し、必要な支援施策を講じていくことが求められます。

重点施策の方向性

親として不安をもつ子育て世代が、子育てを楽しみ、子どもと共に成長していけるよう、相談支援の充実や子育ての仲間づくりを促進します。

また、保育サービスについては、サービスの利用が親子にゆとりを与え、親子がしっかりと向き合い、子どもの育ちにとって良い影響を与えるものとなるよう、提供に努めます。

さらに、家庭環境等によって、子どものより良い育ちが阻害されないよう、様々な課題を抱える子どもと家庭を包括的に支援する体制を構築します。

重点施策2

地域における子どもの安心・安全の向上

近年、登下校中の子どもを狙った犯罪や子どもを巻き込んだ交通事故等が問題となっており、地域における子どもの安全への関心が高まっています。

アンケート調査では、小学校児童の保護者で「子どもの安全の確保（事故・犯罪など）」が上位3位となっています。登下校時における子どもの安全を確保するための対策については、地域の子供は地域で守るという観点から、スクールガード等による見守り支援など、様々な取組が進められています。一方、ボランティアの高齢化や担い手が不足しているという課題が顕在化しており、「地域の目」による見守り活動に困難が生じ始めています。

登下校を始め、地域において、子どもが安心してのびのびと活動できる米原市を目指して、学校、市、警察等の機関と保護者や地域住民等の関係者が連携することが不可欠となっています。

重点施策の方向性

子ども家庭支援ネットワークの充実により、虐待の未然防止と早期発見・支援を推進します。

保育所や幼稚園、認定こども園、小・中学校において、発達段階に応じた防犯・交通安全教育を実施し、事故や犯罪被害に巻き込まれない力を育成します。また、登下校時の事故や犯罪の被害から子どもを守るため、地域社会全体で子どもの安全を見守る体制を推進します。

重点施策3

妊娠期からの切れ目のない支援の充実

妊娠・出産期は、子育てにおいても不安が多い時期となります。アンケート調査を見ると、本市においても、子どもの世話を手助けしてもらえる親族や知人が「誰もいない」という人がわずかにみられ、こうした身近な親族からの支援が得られない、相談相手がいない等の理由から孤立してしまう妊産婦に寄り添い、支援につなげていく仕組みが必要です。

また、本市では、子育て世代包括支援センターに配置された専門員が情報提供や相談支援等を行い、妊娠から出産、子育てまで、切れ目のない支援に取り組んでいますが、認知度の低さが課題となっています。子育て世代包括支援センターの子育て世代への周知と相談支援に取り組む各機関との連携を強化することでその専門性を生かした支援を行うことが求められます。

重点施策の方向性

親としての成長を支援することで、子育てや子どもの成長に喜びや楽しさを実感できるよう、妊娠・出産期から切れ目のない多様な子ども・子育て支援の充実を図ります。

相談支援については、子育て世代包括支援センターの周知を図るほか、子育て包括支援センター連絡会議等の機会を通して各種相談支援機関が妊産婦・乳幼児等の状況を継続的・包括的に把握することで、必要な支援の提供に努めます。

重点施策 4

幼児教育の質の向上と幼小連携

平成 29 年 3 月に幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針が改訂され、共通の「幼児期の教育・保育において育みたい資質・能力」および「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が位置付けられました。これらに基づき、各園の方針や特色を大切にしながら、就学前の子どもの豊かな育ちを支援していくことが求められています。

アンケート調査では、子育てについての悩みについて、小学生児童で「勉強や進学に関すること」が最も高く、次いで「子どもの性格や行動のこと」が高くなっており、子どもの発達や学校教育との学びの連続性を確保する、幼小連携の強化が求められています。

重点施策の方向性

保育所・幼稚園・認定こども園における職員の資質の向上と発達段階に応じた教育・保育を展開するとともに、小学校との滑らかな接続を支援します。目標や意欲、興味・関心を持ち、粘り強く、仲間と協調して取り組む力を育成する幼児教育を実践し、子どもたちの生涯に渡る学びと成長を支えます。

重点施策 5

子どもの地域の居場所づくりの推進

アンケート調査では、子どもの外遊び、公園等の整備・充実へのニーズは高くなっている一方で、幼稚園、保育所、認定こども園の園庭開放の認知度が低かったり、冒険遊び場などの事業の参加者数の減少等がみられ、保護者のニーズと提供体制にギャップがみられます。

本市では、子育てサークル等の自主的な集まりのほか、子どもの自然体験の機会等を支える様々な団体が活動しており、子どもの自主性を高める機会、親子の密なコミュニケーションの機会となっています。こうした体験活動の場や子どもの居場所づくりに取り組んでいる団体が継続して活動を展開できるよう、活動を評価したり、活動上の悩みや課題に寄り添う支援について検討することが求められます。

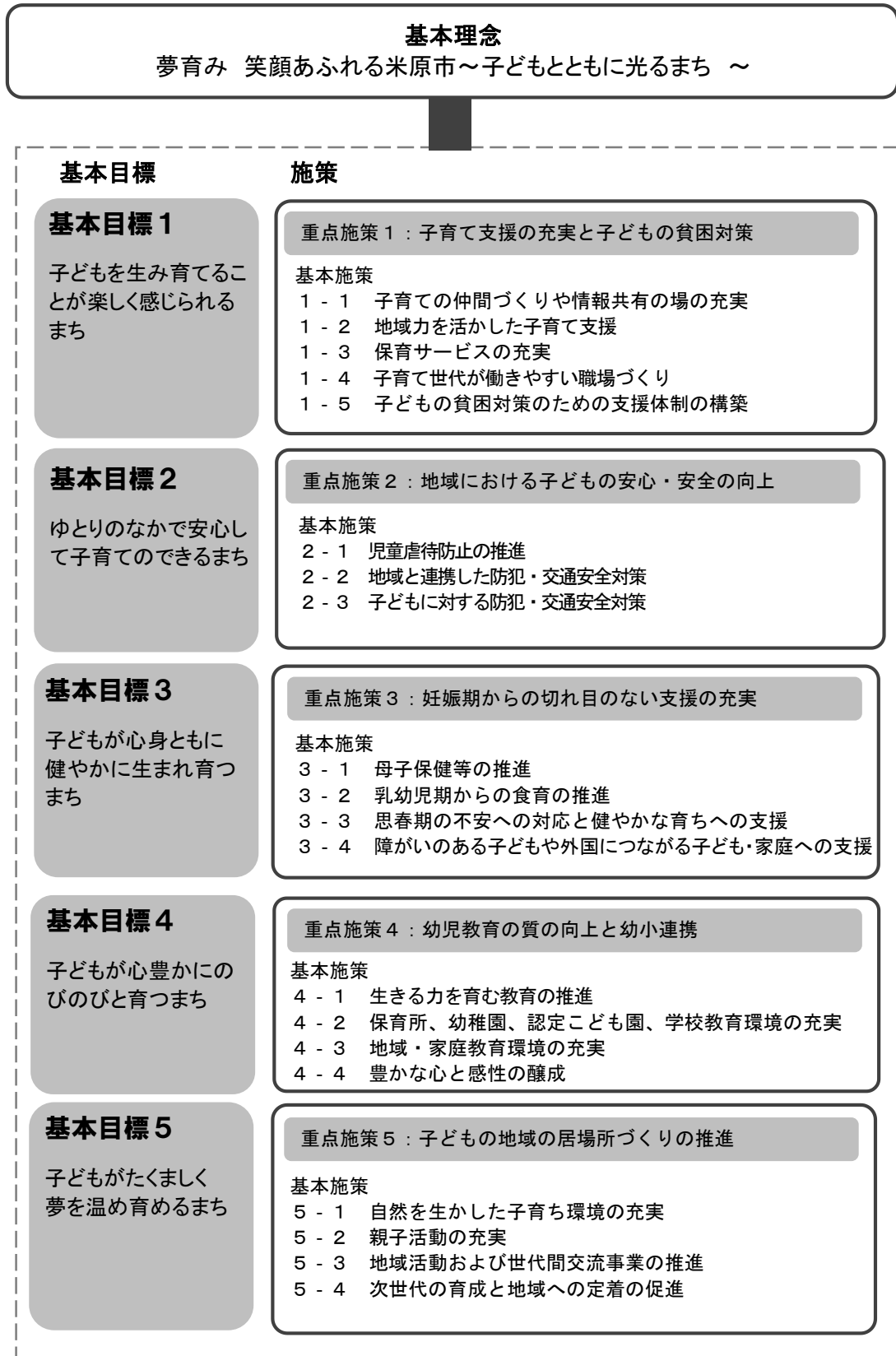
行政と各種団体が連携して、魅力ある体験プログラムの充実や新たな居場所づくりを推進するをほか、幼児期の様々な経験が豊かな人間性を備えた子どもの育成につながることを子育て家庭へ発信し、活力ある地域の居場所づくりを進めていくことが求められています。

重点施策の方向性

体験を通じた親子のコミュニケーションの促進と子どもの主体性や協調性、挑戦する意欲を育てる豊かな環境づくりを進めるため、魅力ある体験プログラムや地域の居場所を充実します。

また、各活動を通して、豊かな経験・体験の機会が子どもの育ちにとっても重要であることを子育て家庭へ周知します。

4 施策の体系



第4章 総合的な施策の展開

1 子どもを生き育てることが楽しく感じられるまち

1 - 1 子育ての仲間づくりや情報共有の場の充実

No.	事業名	事業内容・方針	担当課
1	子育てサロンの充実	未就園児を持つ親の仲間づくり、情報交換の場となる子育てサロンの増加を目指して、開設を希望する団体と情報交換を行い、支援のあり方について検討します。 ・社協子育てサロン（東部デイサービスセンターはびろ内、寄る家うかの、行こ家のとせ）の運営	保育幼稚園課
2	子育てサークルの育成	母子保健事業や地域子育て支援センターの利用などをきっかけに、参加者自身が自主的に運営する子育てサークルに発展するよう米原市社会福祉協議会と協力して支援を行います。また、子育てサークル作り「こもち〜ズ広場」の実施を通して、子育て家庭の孤立解消に取り組みます。さらに、サークル活動が持続的なものとなるよう、サークル同士の交流や活動支援を実施します。 ・子育てサークル作り「こもち〜ズ広場」（社協） ・各子育てサークル活動への支援（社協）	保育幼稚園課
3	地域子育て支援センターの充実	未就園児の親子を対象に、仲間づくりや子育ての悩みなどを気軽に相談でき、子どもを安心して遊ばせることができる場所として、地域子育て支援センターを運営します。土曜日の運営箇所の増加については、現状の利用状況を注視し、必要性について検討します。 利用者支援事業と連携して、子育て家庭の教育・保育事業や地域子育て支援事業等の利用を支援します。 ・地域子育て支援センターの運営 ・子育て世代包括支援センター職員の巡回訪問	保育幼稚園課
4	子育て情報誌の発行	乳幼児を対象とした、子育てに必要な情報や市内の子育て支援の状況が分かる情報誌「米原市子育て応援ガイド」を発行します。 保育サービスや母子保健事業の紹介、各種相談事業、子育てサークルや子どもを対象としたイベントの紹介などが掲載されています。	保育幼稚園課
		「米原市子育て応援ガイド」は各窓口などに設置するほか、新生児訪問時や各種健診時に配布して啓発に努めます。	健康づくり課

No.	事業名	事業内容・方針	担当課
5	ウェブサイト等による子育て支援情報の提供	子育て家庭のニーズを把握しながら、子どもの健康や保育所・幼稚園・認定こども園の情報、未就園児を対象とした地域子育て支援センターの活動内容など総合的な情報提供に努めます。	子育て支援課
		広報誌や市公式ウェブサイトなどにより、健康診査や予防接種の日程などの情報掲示を引き続き行います。	健康づくり課
		メール配信サービスや市公式フェイスブックなどを活用して配信登録者の増加に努めるとともに、適時に情報配信を行います。	子育て支援課
6	新規 子育てアプリの導入	子育て家庭への情報提供充実のため、子育てアプリを導入します。	子育て支援課

1 - 2 地域力を活かした子育て支援

No.	事業名	事業内容・方針	担当課
1	子育て支援ボランティアの育成	子育てサロン、子どもの預かりなど子育て支援に関わるボランティア、体験学習など子どもの育ちを支援するボランティアなどの育成およびその活動を支援していく仕組みづくりを検討します。	子育て支援課
2	男女共同参画社会の推進	男女が互いに人権を尊重しながら責任も分かち合い、性別に関わりなくその個性と能力を十分に発揮することができる社会の推進に向けて、広報啓発活動などを実施します。 「男女共同参画フォーラム」の開催や「こころの悩み相談室」など各種相談体制の充実に努めます。	人権政策課
3	地域福祉活動の拠点づくり	高齢者の生きがいづくりとして、地域において元気な高齢者が支援を必要とする人たちを支える側として活躍できる「地域お茶の間創造支援事業」をはじめ、ボランティア活動、子どもとの交流事業などを通じて地域の拠点づくりに取り組んでいます。 高齢者と子どもたちとの交流が日常的に行われるよう啓発に努めていきます。	くらし支援課
4	ファミリー・サポート・センター事業の実施	就学前施設、小学校などへの送迎や、その前後の保育、趣味活動などのリフレッシュ時に子どもを預かるなどのサービスを提供したい人と受けたい人が会員となり、育児の相互援助を有料で行うファミリー・サポート・センター事業の実施を進めます。	子育て支援課
5	民生委員児童委員活動による子育て支援	米原市民生委員児童委員協議会連合会、各単位民生委員児童委員協議会の活動として、地域の子育て支援に関する研修会の開催や事業への参加や協力を行い、子育て・子育てしやすい地域づくりを進めます。	くらし支援課
6	新規 図書館を活用した子育て支援	児童コーナーに子育て関連の図書、雑誌を配置するなど、子育て情報が得やすい書籍の配置を検討します。 また、子育て関連情報や保育園、幼稚園、認定こども園の情報など、子育て情報コーナーの設置を検討します。	図書館 子育て支援課

1 - 3 保育サービスの充実

No.	事業名	事業内容・方針	担当課
1	延長保育の実施	11時間を超える延長保育は5園で実施しており、うち2園は12時間までの延長保育を行っています。実施施設の拡大とニーズに応じた対応の充実に努めます。	保育幼稚園課
2	低年齢児保育の実施	母親の就労が一般化している今日の社会情勢から3歳未満児の保育についても増加傾向にあります。 年度途中の受入れなど、利用しやすい環境の充実に努めます。	保育幼稚園課
3	病児・病後児保育の実施	保育所の入所児童が病気の回復期で家庭や集団での保育が困難な場合などにおいて、一時的に保育を行う病後児保育を公立保育所2か所で実施しています。 米原市地域包括医療福祉センターにて実施している病児・病後児保育室「おおぞら」を含め、病児・病後児保育の周知対策について見直しを行い、登録者の拡大に努めます。	保育幼稚園課
4	休日保育の充実	保護者の勤務形態の多様化による日曜日・祝日や年末年始の保育ニーズに応えられるよう、休日保育の実施保育所の充実に努めます。	保育幼稚園課
5	特別支援保育の充実	個別の配慮や支援を必要とする児童について、「インクルーシブ」の考え方にに基づき職員組織と必要に応じた個別対応の両輪で支援を行います。	保育幼稚園課
6	一時預かり事業の実施	保護者の病気、疲労、冠婚葬祭、リフレッシュなどにより保育が必要となった場合、子どもを保育所や認定こども園で一時的な保育を行います。今後は更に必要性が高まると予測されますので、サービスのPRに努め、利用を促進します。	保育幼稚園課
7	保育所、幼稚園、認定こども園機能の強化	多様な保育ニーズに応える地域に開かれた就学前施設としての機能強化のため、特別保育事業の推進を行っています。保育の専門施設としての資源を生かすため、家庭で子育てをされている保護者への支援についても働き掛けを行います。高齢者とふれあい活動を行う世代間交流など、地域活動を積極的に行います。	保育幼稚園課
8	新規 保育人材の確保・定着の促進	多様な保育ニーズに応じていくために、保育士や幼稚園教諭免許の有資格者や子育て支援員などの保育人材確保策を強化するとともに、働きやすい職場に向けて労働環境の改善を図り、離職防止に努めます。	保育幼稚園課 子育て支援課

1 - 4 子育て世代が働きやすい職場づくり

No.	事業名	事業内容・方針	担当課
1	企業・事業所の子育て支援の取組の促進	育児休暇が取得しやすい、就労者が地域活動に参加しやすい、学校行事に参加しやすいなど、子育てを支援する職場づくりが推進されるよう、市内企業を対象に企業訪問を実施し、啓発を行います。	商工観光課

1 - 5 子どもの貧困対策のための支援体制の構築

No.	事業名	事業内容・方針	担当課
1	新規 子どもの貧困についての実態調査の実施	子どもの生活に関する実態調査を行い、本市における子どもの貧困の実態を把握します。 ・子どもの生活に関する実態調査の実施	子育て支援課
2	新規 子どもの貧困についての関係課・機関のネットワークづくり	子どもや子育て家庭と関わる様々な関係機関に子どもの貧困への理解を深めてもらうための学習会等を実施します。研修等を通して、貧困の状態にある子どもや世帯を包括的に支援するためのネットワークを構築します。 ・関係機関との学習会の実施 ・子どもの貧困関係機関のネットワークの構築	子育て支援課

2 ゆとりのなかで安心して子育てのできるまち

2-1 児童虐待防止の推進

No.	事業名	事業内容・方針	担当課
1	新規 米原市子ども家庭相談室と各種相談窓口の連携	家庭相談システムを効果的に活用し、各種相談窓口に寄せられる相談についての情報共有、支援の連携を推進します。 子ども家庭相談室と若者自立ルーム・あおぞらの連携を強化し、年齢階層で途切れることなく、子ども・若者の自立に向けた支援を推進します。 *関連相談窓口：地域子育て支援センター、こころの教育相談、健康づくり課、学校教育課、米原市少年センター、若者自立ルーム「あおぞら」、母子父子自立支援員、ひまわり教室、発達支援センターなど ・子ども家庭相談室の相談支援 ・関係機関との連携会議	子育て支援課 子ども家庭相談室
2	児童虐待防止の啓発	児童虐待についての知識の普及と早期通報への協力を呼びかけます。 関係機関団体への協力要請、児童虐待防止推進月間の取組、オレンジリボンキャンペーン、県のキャラバン隊の受入れ、広報誌などによる啓発、CAP（子どもへの暴力防止）プログラムを実施します。	子育て支援課 子ども家庭相談室
3	子ども家庭支援ネットワークの充実	児童福祉法に基づく要保護児童対策地域協議会として「米原市子ども家庭支援ネットワーク」を設置しています。 児童虐待だけでなく不登校・引きこもりや非行、発達や障がいなどに関わる児童などへの支援を総合的に行うため、関係機関のネットワークを充実させて児童虐待の未然防止と早期対策の確立に努めます。	子育て支援課 子ども家庭相談室
4	CAP（子どもへの暴力防止）プログラムの普及	虐待などの被害を未然に防ぐため、子ども自身に何ができるかを教えるCAPプログラムを市内各保育所、幼稚園、認定こども園、学校へ導入しています。「誰もが無条件に一人の人間として大切な存在」であることを伝え、子どもの自尊感情を育んでいきます。	子育て支援課 子ども家庭相談室
5	DVの防止と家族への支援	DVが確認された家庭に子どもがいる場合、「心理的虐待」があったと認め、児童虐待防止の観点から安全確認および家庭支援の取組を実施しています。子どもに与える影響を最小限にとどめるとともに、被害に遭遇した子どもたちのメンタルケアなど必要な支援を行います。	子育て支援課 子ども家庭相談室
6	養育支援訪問事業の実施	育児ストレス、産後うつ病、育児ノイローゼなどの問題によって、子育てに対して不安や孤立感などを抱える家庭や、様々な原因で養育支援が必要となっている家庭に対して、保健師・保育士などがその居宅を訪問し、養育に関する具体的な指導助言などを実施することにより、個々の家庭の抱える養育上の諸問題の解決、軽減を図ります。	子育て支援課 子ども家庭相談室

2-2 地域と連携した防犯・交通安全対策

No.	事業名	事業内容・方針	担当課
1	防犯対策に関する情報提供と防犯灯の整備 (元「地域安全活動の実施」)	犯罪の現状や防犯対策について、防災情報伝達システムなどにより情報提供を行うとともに、防犯灯の整備および各自治会への防犯灯設置の補助を実施します。 ・防災情報伝達システムによる犯罪・防犯情報発信 ・防犯灯設置補助	防災危機管理課
2	防犯パトロールの実施 (元「危険個所対策」)	地域の協力を得て「絆マップ」を作成し、通学路等の一斉点検を実施します。 青色回転灯パトロール車による啓発活動を強化します。 また、防犯パトロール隊による見守りや地域における子どもたちの遊び場、通学路、ため池などの危険箇所の点検を随時実施します。 ・青色回転灯パトロール事業 ・防犯パトロール隊による危険個所の点検、通学時の見守り ・「絆マップ」の作成支援	防災危機管理課

2-3 子どもに対する防犯・交通安全対策

No.	事業名	事業内容・方針	担当課
1	交通安全教室・指導の実施	保育所、幼稚園、認定こども園、小・中学校の幼児・児童・生徒に対し、交通ルール順守や通学時のマナーの改善だけでなく、危険な状況に対してどのように対処するかなどを身に付けるための交通安全教室を実施します。 ・小1、中1を対象とした交通安全教室の実施等	学校教育課
		毎月1日・15日に、通学する児童生徒に対して交通安全協会と交通指導員による交通安全指導を実施します。	防災危機管理課
2	通学路の点検と登下校時の見守り活動の実施	小学校において、スクールガードの協力を得ながら、交通安全マップの活用や「子ども110番のおうち」の確認など、登下校時の危険なポイントを中心に見守り活動を実施します。また、通学路交通安全プログラムの策定などを進め、地域や関係機関との連携を図ります。 ・交通安全マップの作成・活用 ・スクールガードの活動	学校教育課
3	通学路や歩道の除雪対策	冬期雪寒時の通勤・通学など生活基盤である主要幹線道路の交通を確保するため、降積雪状況や道路交通状況などを速やかに把握し、迅速かつ適切な除雪活動を実施します。併せて歩行者の安全を確保するために歩道の除雪も実施します。	建設課

3 子どもが心身ともに健やかに生まれ育つまち

3-1 母子保健等の推進

No.	事業名	事業内容・方針	担当課
1	相談体制の充実	人権擁護委員・行政相談委員・民生委員児童委員・身体障がい者相談員・知的障がい者相談員が合同で、米原市社会福祉協議会各支所等を会場に市民の心配ごと総合相談を開設しています。ここで民生委員児童委員が主となり、子育て支援などの一般的な相談を行います。	くらし支援課
		健康診査後のフォローなど子育ての相談として育児相談、発達相談を実施する「すくすくホットライン」を引き続き設置します。	子ども家庭相談室
2	不妊治療への支援	不妊治療のうち、1回の治療費が高額となる治療に対し、経済的負担の軽減を図るため、治療に要する費用の一部を助成します。	健康づくり課
3	すくすくファイルの発行と活用促進	子どもの健やかな成長発達を支援するため、妊娠期の健康管理や育児に関する情報を掲載した「すくすくファイル」を母子健康手帳と一緒に発行します。便利で分かりやすいものとなるよう、必要に応じて見直しを行い、活用を促進します。 ・すくすくファイルの発行	健康づくり課
4	妊婦支援の実施	母子健康手帳やすくすくファイルを活用し、血圧測定、1日の食事量の計算をしながら、生活習慣病予防から見た妊娠中の体と過ごし方について説明します。また、必要に応じて訪問や面接を行い、妊娠中の経過確認の支援を実施します。	健康づくり課
5	妊婦一般健康診査費用助成事業	安全・安心な出産のため、妊婦一般健康診査費用を14回を限度として助成します。	健康づくり課
6	訪問指導の充実	子どもが産まれた全ての家庭を対象に新生児訪問、乳児家庭全戸訪問を実施します。 また、妊娠期から乳幼児期に掛けて、必要に応じた訪問指導を行い、支援が必要な家庭を早期に発見し、必要な支援につなぎます。 ・新生児訪問、乳児家庭全戸訪問の実施 新生児訪問、乳児家庭全戸訪問、養育支援訪問事業の家庭訪問3事業で連携会議を開催し、個々の家庭の抱える養育上の課題等の共有と、課題解決・改善に向けた、効果的な支援を展開します。 ・家庭訪問3事業連携会議	健康づくり課
7	乳幼児健康診査の充実	4か月、10か月、1歳8か月、2歳半、3歳半の時期に、異常の早期発見、個々に応じた発達の支援を目的とした乳幼児健診を実施します。	健康づくり課

No.	事業名	事業内容・方針	担当課
8	育児相談	保健センター（市内2か所）で育児相談を実施し、身体計測、保健指導、栄養指導を行います。	健康づくり課
9	救急医療体制の充実	「長浜米原休日急患診療所」の利用促進周知と診療体制の確保を図ります。	健康づくり課
10	救急法などの知識の普及	消防署が行う救急法講座や事故予防研修への紹介あっせんなど学習機会の提供に努めます。	防災危機管理課
11	救命措置対策	突然の心停止などに備え、保育所、幼稚園、認定こども園、学校などをはじめ、公共施設にAED（自動体外式除細動器）を設置しています。	各所管課
12	予防接種の実施	BCG、ポリオ、2種混合、4種混合、Hibワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン、麻しん風疹混合、水痘、日本脳炎予防接種を実施しています。	健康づくり課
13	福祉医療費の助成	0歳から中学生までの通院・入院医療費の無料化を継続し、子育て経費の負担軽減に努めます。	保険課
14	子育て世代包括支援センターの運営	関係機関との連携強化を図り、妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援を行います。	健康づくり課

3-2 乳幼児期からの食育の推進

No.	事業名	事業内容・方針	担当課
1	食に関する学習 機会の提供	母子健康手帳交付時に乳幼児健診や育児相談において、栄養に関する情報提供、相談を行います。また、小・中学校への健康教育などを実施します。	健康づくり課
2	離乳食指導	4か月児健診、7か月児もぐもぐ教室、10か月児健診において、それぞれの成長段階に応じた離乳食について栄養士による小グループ指導を行います。また、育児相談にて随時個別栄養相談を実施します。	健康づくり課
3	健康推進員による食育	健康推進員の協力を得て、地域での食育推進事業を実施します。	健康づくり課
4	食育推進計画の推進	食育推進計画である「米原市いきいき食のまちづくり計画」に基づき、食育推進協議会で計画の進捗管理を行います。	健康づくり課
5	魅力ある学校給食の実現	「米原市学校給食運営基本計画」に基づき、幼稚園から中学校までの子どもたちに安全、安心で栄養バランスの取れたおいしい学校給食を提供し、健やかな成長と生涯に渡って健康に過ごせる子どもの育成を目指します。 安全、安心な食材の確保、地場産物の使用を推進し、地産地消を更に拡大します。	学校給食課

3-3 思春期の不安への対応と健やかな育ちへの支援

No.	事業名	事業内容・方針	担当課
1	健康教育の充実	食生活や生活リズムの乱れ、運動不足などにより、肥満などの子どもの生活習慣病の増加が懸念されています。 子どもの頃から健康に対する意識を高めるため、学校における家庭、保健体育の教科を中心に健康教育を実施していきます。 薬物・タバコ・アルコールの害などについて正しい知識の普及を図るため、小・中学生を対象に思春期教室を開催します。性教育については、系統的な指導ができるよう計画的に実施するとともに、指導力の向上に努めます。	学校教育課
2	思春期相談の充実	思春期の心身の健康や性の悩みについて適切に対応するため、臨床心理士、スクールカウンセラー、特別支援サポートセンター、医療機関などとの連携を強化し、相談体制の充実に努めます。 児童・生徒の心の問題に関する相談は年々相談件数が増加し、相談の内容が多様化していることから、臨床心理士による「こころの教育相談」の充実を図っていきます。また、教職員の教育相談能力を高める研修の充実を図ります。	学校教育課
3	いじめ防止対策	「いじめ問題対策連絡協議会」の設置により、いじめ防止に対する取組や啓発を進めます。また「米原ストップいじめプロジェクト」を展開し、未然防止、早期発見、早期対応に取り組みます。	人権政策課
4	スクールカウンセラーの配置	不登校等児童生徒やいじめなどの問題行動の対応には、学校におけるカウンセリング機能の充実が重要であり、児童生徒の臨床心理に関して専門的な知識や経験を有するスクールカウンセラーを配置し、生徒の心の問題の解決に当たります。	学校教育課
5	不登校・ひきこもり青少年への対応	若者自立ルーム「あおぞら」では、ひきこもりやニートなどの若者やその家族の相談を受け、生活や仕事の自立支援を引き続き行います。 要保護児童に関わるケースについては、「米原市子ども家庭支援ネットワーク」で対応します。	子育て支援課 子ども家庭相談室
		子どもの心の問題は、学校、家庭、特別支援サポートセンター、少年センターなど地域の関係機関が協力して取り組みます。 学校では課題に対処するため、学校全体で支援する体制を築くとともに、不登校についてはスクールカウンセラー、臨床心理士などによる相談体制の充実に努めます。 不登校児童を対象とした適応指導教室（みのり）を継続して開室し、学校への復帰、進学、更に就職へと結び付けていきます。また、子どもケアサポーターによる別室登校児童生徒の指導・支援を行います。	学校教育課

3 - 4 障がいのある子どもや外国につながる子ども・家庭への支援

No.	事業名	事業内容・方針	担当課
1	児童発達支援事業所（ひまわり教室）との連携	ひまわり教室では、心理判定員、保育士を配置して、発達の課題が見受けられる就学前児童を対象として、心身の状況に応じた早期療育事業を実施しています。 療育を必要とする児童の早期療育の機会を確保するため、就学に当たっては、就学前施設や必要に応じて関係機関と検討会を実施するなど連携強化に努めます。	社会福祉課
2	療育ネットワークの確立	乳幼児期から保育所、幼稚園、認定こども園、ひまわり教室、小・中学校、家庭などと横断的な連携を深め、発達支援センターの機能強化に努めます。 継続支援のために、相談者へのフォローアップを積極的に行います。	健康づくり課 (発達支援センター)
3	障がいのある子どもを持つ親への支援	特別支援保育コーディネーターが中心となって、通常保育の中で子育ての相談などを行うことで、保護者と一緒に子どもの成長を見届け、支援します。	保育幼稚園課
4	ひとり親家庭への支援	ひとり親家庭の生活の安定を図るため、経済的な支援を継続するとともに、自立に向けた就労支援のため、各種制度の周知や関係機関と連携した相談体制の強化に努めます。	子育て支援課 子ども家庭相談室
5	在住外国人の保育の利用への支援	在住外国人の子育てについても、適切に支援ができるよう、地域子育て支援センターの活動を通して、在住外国人への子育て情報の提供、相談体制の充実を図ります。 また、保育所、幼稚園、認定こども園などの受入れを通して、安心できる子育て環境を提供します。	保育幼稚園課
6	外国語版すくすくファイルの発行	外国語版すくすくファイル（ポルトガル語、中国語）を作成し、外国人が就労している事業所を通じて啓発、活用を目指します。	健康づくり課
7	多文化共生教育の推進	多様な文化や価値を認め尊重し、全ての子どもたちが異なる文化や価値観について学ぶ機会を提供するなど、多文化共生教育の推進に積極的に努めます。 日本語指導が必要な外国籍の子どもたちのために、日本語指導教室を開設するなど支援強化に努めます。	人権政策課

4 子どもが心豊かにのびのびと育つまち

4-1 生きる力を育む教育の推進

No.	事業名	事業内容・方針	担当課
1	こころの教育の充実	今日の他者への無関心、社会や集団との関わりの弱まり、規範意識や人権感覚の希薄化などの問題は子どもたちの成長に大きな影響を及ぼしています。正義感、責任感や思いやりの心、基本的なモラルや規範意識、自然や他者との好ましい関わりなど、豊かな心の育成を目指す取組について道徳の時間を中心に進めていきます。	学校教育課
2	基礎学力の確実な定着	基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指すために、少人数指導など指導法の改善や工夫により学習意欲を高め、基礎学力の確実な定着を図ります。	学校教育課
3	体験的な学習の推進	豊かな人間性や生きる力を育むため、自然体験、職場体験、ボランティア活動など、地域の人々や自然、文化などに関わる体験活動について支援します。行事や教科学習、総合的な学習の時間との関連を図りながら取り組みます。	学校教育課
4	まいばらっ子に生きる力を育む事業	「伊吹山」「絵画」「本」を題材として、「まいばらっ子に生きる力を」をテーマに保護者も参加しながら郷土愛を育み、体力向上、読書活動などを通じて生きる力を身に付けます。	学校教育課
5	特別支援教育の充実	障がいのある児童やその保護者などに対する日常の教育相談活動の充実に努めるとともに、障がいについての正しい理解と認識を持つための教育活動や研修会を実施していきます。障がいのある児童の体験学習、校外学習などを促進し、豊かな人間性を育み、集団に参加する能力、社会生活に必要な知識や技能の習得を図ります。専門的な研修の充実、養護学校や福祉施設が蓄積した教育上の経験やノウハウを生かすことなどにより、地域の小・中学校教員の指導力を高めていきます。LD（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動性障害）、高機能自閉症を含めて、障害のある児童の自立や社会参加に向けて、一人一人の教育的ニーズを把握し、生活や学習上の困難を改善または克服するために適切な支援を行う「特別支援教育」（全種障害対応）の充実に努めます。	学校教育課
6	学校におけるスポーツ環境の整備と体力づくりの充実	子どもの運動不足、基礎体力の低下が危惧されることから、体力の向上に向けた取組を推進するとともに、クラブ活動など学校におけるスポーツ環境の充実に努めます。	学校教育課
7	社会生活のルールづくり	健全な心を育成し、幼児や小学校低学年での基本的な生活習慣や社会生活上のルールを身に付けるよう、保育所、幼稚園、認定こども園、学校、地域、家庭が連携して指導の充実に努めます。あいさつ運動など、地域に根ざした活動に積極的な参加を促し、社会のマナーを身に付けられる機会として継続して実施します。人と触れ合う機会や活動する場を提供し、子どもが人との関わりの中で身に付けていくべき、協力・強調、思いやりなど人間らしさを培います。	学校教育課

4-2 保育所、幼稚園、認定こども園、学校教育環境の充実

No.	事業名	事業内容・方針	担当課
1	保育所・幼稚園・認定こども園等の整備	<p>保育所・幼稚園・認定こども園については、保育ニーズの変化を踏まえ、定期的に利用定員の見直しを行うと共に、私立保育所の幼保連携型認定こども園への移行を支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私立保育所の幼保連携型認定こども園への移行支援 	保育幼稚園課
2	保育所・幼稚園・認定こども園、学校の施設・環境の整備	<p>安全、安心な保育・学校生活が送れるよう、老朽施設の改修や不良箇所の補修・修繕など計画的に整備していきます。施設長寿命化に関する計画の策定に向けて情報収集を行い、私立施設への情報提供を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「インフラ長寿命化計画」や「個別施設毎の長寿命化計画」の情報収集や私立施設管理者への周知 	保育幼稚園課 教育総務課
3	保育所・幼稚園・認定こども園機能の充実	<p>乳幼児期の健やかな発育、ゆとりある子育てができるよう、保育所・幼稚園・認定こども園の施設や機能など、特性を活かして、子育ての悩みや相談を気軽にできる環境づくりを行うなど、家庭の教育を支援するきめ細かな支援に努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就園児親子対象の園開放、親子活動 ・幼稚園による夏季休業期間中の園開放 ・在園児への子育て支援 	保育幼稚園課
4	保育所、幼稚園、認定こども園における保育の質向上	<p>0歳児から5歳児までの育ちをつなぎ、さらには小学校生活以降の心身の自立へとつなぐことができるよう、職員の保育力の向上を目指します。</p> <p>子どもの24時間の生活を意識しながら子ども理解を深め、保育に生かすことができるように、専門的な指導の実施や実践的な研究、研修を行います。</p> <p>積極的な保育カンファレンスや異年齢職員の情報交換等、職員間の綿密な連携を通して精度の高いチーム保育を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内研究会の実施 	保育幼稚園課
5	新規 就学前教育と小学校教育との円滑な接続と連携の推進	<p>就学前におけるすべての子どもの豊かな育ちを保障し、質の高い教育を確立するため、就学前教育カリキュラムや接続期カリキュラムの作成に取り組み、小学校教育への円滑な接続のための取組を強化します。</p>	保育幼稚園課
6	保育所・幼稚園・認定こども園と小学校の連携	<p>幼小の滑らかな接続のための取組や学区内の教職員の交流を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校区ごとの教育フォーラムの開催 ・学区内の教職員交流 ・幼小の滑らかな接続にかかる取組 	保育幼稚園課
7	異年齢交流、多世代交流の推進	<p>全ての保育所や認定こども園において、異なる年齢層との遊びや幼児と小学生、中学生との活動交流、また地域の高齢者との交流を通して体験学習を重ねる異年齢交流事業を引き続き実施します。など異年齢の子どもと一緒に活動する機会を提供します。また、中学生や高校生による保育体験を行い、異子育ての楽しさを体験する機会を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世代間交流（老人会、民生委員、地域サロン、デイサービスとの交流）を実施 ・中高生の保育体験、ボランティアの受入れ ・異年齢（小学生、中学生含む）との交流 	保育幼稚園課

No.	事業名	事業内容・方針	担当課
8	学校安全管理体制の充実	より多くの目で子どもたちを見守っていくために、学校、保護者、地域ぐるみでの体制整備を進めます。 学校評価において安全、安心な学校づくりを点検しながら、常に地域と一体となって学校安全管理体制の充実に取り組みます。 危機管理・不審者対応マニュアルが機能するよう、訓練と改善を繰り返し行っていきます。	学校教育課
9	学校評議員制度・保育所・認定こども園運営委員会の充実	学識経験者、保護者、地域などから選出された委員により、学校・園経営や運営について意見などを交流する機会を設け、充実や改善を図ります。	学校教育課
10	通学・通園への支援	通園バス運行を行う長岡学園と醒井保育園に対して、助成を行います。	保育幼稚園課
		いぶき認定こども園、山東幼稚園、おうみ認定こども園、かなん認定こども園の園児を対象に通園時の安全性を確保するため、スクールバスの円滑な運行管理を行います。 路線バスが少なく、通学・通園が困難な地域の児童、生徒に均等な学習機会を確保するため、スクールバスの運行を行います。 小学校の通学に路線バスまたはデマンド方式の乗合タクシーを利用する児童に助成を行います。	教育総務課 保育幼稚園課
11	放課後安心プランの推進	保護者が就労などにより昼間家庭にいない小学校児童（1年生～6年生）を対象に、家庭に代わる生活の場として、安全・安心でゆとりのある放課後の居場所を提供します。 待機児童を出さないよう、支援員の確保や施設の整備に努めます。	子育て支援課

4-3 地域・家庭教育環境の充実

No.	事業名	事業内容・方針	担当課
1	青少年健全育成	<p>米原市青少年育成市民会議と連携しながら各種事業を展開します（あいさつ運動、補導巡回パトロール、青少年育成大会、各支部の体験活動事業など）。</p> <p>米原市少年センターの各種事業を実施します（非行防止、有害環境浄化、補導活動、無職少年対策、少年補導委員活動など）。</p> <p>子どもの安全確保に伴う関係者会議の開催や安全確保対策に取り組み、各種機関団体と連携を強化します（「子ども110番のおうち」、「子ども110番のくるま」、スクールガードの取組など）。</p>	子育て支援課 子ども家庭相談室（少年センター）
2	家庭の教育力向上のための学習機会の充実 （元「家庭教育への支援」）	<p>子育て中の親が身近な地域で家庭教育講座や子育てグループ活動へ参加できるよう、環境を整備します。</p> <p>講演会や広報、リーフレットを活用し、幼少期の基本的な生活習慣の形成の重要性、多様な体験活動が子どもの豊かな育ちに与える影響等について周知します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育に資する出前講座 ・家庭教育カフェの開催（各地域） 	生涯学習課 子育て支援課
3	地域の教育力の向上	<p>地域が主体的に行っている地域活動や伝統行事などを継続・活性化していくための支援を行い、地域の教育力を高めていきます。</p>	各市民自治センター

4-4 豊かな心と感性の醸成

No.	事業名	事業内容・方針	担当課
1	国際理解教育の推進	小学校外国語活動などにおいて、ALT（外国語指導助手）やMG T（市国際理解教育協力員）を配置し、簡単な会話に慣れ親しんだり、外国文化に触れたりしながら国際理解を深める教育を推進します。	学校教育課
2	米原市人権教育推進協議会の推進	米原市人権教育推進協議会の団体活動事業を支援し、行政と連帯しながら、地域人権リーダー研修会、きらめき人権講座、ハートフル・フォーラムなどの各種事業を展開します。 国や県、近隣市など人権に関わる行政機関や民間の組織と連携を図りながら、各種の教育啓発事業を展開します（各種研修参加、同和問題啓発強調月間・人権週刊啓発など）。	生涯学習課
3	子どもの人権について意識の啓発、学習機会の提供	広報誌、講演会、人権教室、人権作品募集など様々な啓発機会を通して、子どもの人権について意識の啓発、学習機会の提供に努めます。 小・中学生から人権作品（作文、ポスター、標語）を募集し、子どもたちが人権について考えるきっかけづくりとします。 小学校児童を対象に人権擁護委員による「人権教室」を開催し、子どもたちの人権感覚の醸成と人権の大切さについて学習を行います。	人権政策課
4	人権教育・保育の実施	身近な大人との信頼関係を基盤とした、就学前の保育の重要性を踏まえ、自尊感情の育成に努めます。また、一人一人に応じた、子どもの理解を通じた人権研修を行い、子ども、保護者への丁寧な保育を推進します。	保育幼稚園課
5	学校教育における人権学習の実施	学校教育において、人権尊重の実践的な態度を育成する教育の充実に努めます。 職員研修やPTA研修を充実させ、体罰やセクハラ・虐待防止、インターネット・携帯電話による人権侵害が発生しないよう、子どもの人権や権利について学習を深めます。	学校教育課
6	児童・生徒向け環境教育	まちづくり出前講座などを通じて、環境に優しい暮らし方や身近な地域の自然、世界の環境問題を知ることによって環境を守り育てる心と行動力を育みます。 また、地域の環境リーダーを育成し、地域の人材を活用した環境学習の充実に努めます。	環境保全課 生涯学習課
		自然の中で遊び、学び、体験することで地域の自然を愛し守る人を育てていくため、米原市の豊かな自然環境を生かした各学校独自の多彩な環境学習を実施します。 やまのこ森林学習やうみのこフローティングスクール、びわ湖の日の取組を実施します。	学校教育課
7	ブックスタート	絵本を介して温かいひとときが持たれることを願い、10か月健診に訪れた赤ちゃんと保護者に、絵本や子育てに関する資料が入った「ブックスタート・パック」を贈る活動を行います。	図書館
8	児童図書の整備	多感で知識欲に富む子どもたちに、読書は、想像力という一生の宝物を与えてくれます。図書館は各年齢の発達段階に合わせて、幅広く変化に富んだ優れた児童図書を収集し、子どもたちに提供していきます。	図書館

No.	事業名	事業内容・方針	担当課
9	文化芸術活動の提供	<p>子どもたちが情操を高め、心豊かに育つようコンサートをはじめ、様々な高い水準の音楽や文化芸術活動に接する機会を継続して提供していきます。</p> <p>児童、生徒が伝統的な行事の継承や文化的活動に関わりを持つことにより、地域を誇りに思える風土づくりを促進します。</p>	図書館

5 子どもがたくましく夢を温め育めるまち

5-1 自然を生かした子育て環境の充実

No.	事業名	事業内容・方針	担当課
1	公園・緑地の整備	「米原市緑の基本計画」に基づき、市民が憩える緑地環境の保全と整備を推進します。 米原駅東口まちづくり事業において、市民参画により、公園構想の検討を推進します。 ・米原駅東口まちづくり事業 ・米原市緑の基本計画	都市計画課 建設課
2	里山の保全と活用	自治会との協定に基づき荒廃した里山を整備する里山リニューアル事業を行っています。子どもが身近で豊かな自然と触れ合うことができるよう整備後の活用を検討します。	林務課
3	新規 子どもが集まる地域の公園づくり	自治会と連携して、子どもが安心して集まり、地域と交流できる公園づくりや維持管理について検討します。	都市計画課 建設課
4	新規 子どもの居場所・子育て支援の拠点づくり	地域が主体的に行う子ども食堂等の子どもの居場所づくりや子育て支援活動を継続・活性化していくための支援を行い、地域の教育力を高めていきます。	子育て支援課
5	自然に親しむ遊び場づくりの推進（元「冒険遊び場」）	子ども自らが主体的に自然の中で遊び、学び、体験する環境を整え、自主性と生きる力を養う取組を市内にて継続し、拡大します。	子育て支援課
6	自然と共生するまちづくり・自然環境の保全	豊かな自然環境を未来の世代へ受け継いでいくため、自然との共生や環境保全の意識向上のきっかけづくりとして、地球の自然を知るまいばら自然観察会を継続的に実施していきます。	環境保全課
7	水に親しむ事業の推進	豊かな自然を生かし、カヌーなどを活用した水に親しむ事業を推進します。	生涯学習課

5-2 親子活動機会の充実

No.	事業名	事業内容・方針	担当課
1	おはなし会	幼児から小学校低学年を対象に、おはなしサークルの協力を得ながら毎月定期的に行う図書館でのおはなし会を実施します。 本の貸出しや読み聞かせを行う「おはなし隊」を保育所、幼稚園、認定こども園に派遣し、おはなし会を実施します。	図書館
2	子ども対象のイベントの拡充	生涯学習施設の指定管理者や地域で活動するNPOなどと協働で、子どもの活動機会を提供できるよう必要な支援を行います。 アドバイザーなどの充実についても、これらの団体を通じて推進していきます。	生涯学習課
		公民館事業、米原市青少年育成市民会議の事業、米原市子ども会育成連合会の事業や各自治会活動などを通じて、子ども対象のイベントを展開していきます。	子育て支援課
3	親子講座	親子と一緒に遊び、様々な交流の中でコミュニケーションを図るとともに、情報を交換することによって親子が楽しみ学ぶことのできる機会を提供します。 公民館活動、米原市青少年育成市民会議、米原市子ども会育成連合会、米原市女性の会、市内各種の親子サークルなどの活動を通じて、親子が触れ合い、交流を図る機会を展開していきます。	保育幼稚園課
4	児童・生徒向け文化的催し物	芸術展覧会の音楽部門の出品資格を小学生以上とし、文化活動への参加を促すとともに、市民との協働により、児童・生徒の文化的活動の充実を図ります。	生涯学習課
5	保育所、幼稚園、認定こども園などの園庭開放	未就園児と保護者に園庭を開放し、安心して遊ぶことのできる場を提供するとともに、子育ての悩みや相談を気軽にできる環境をつくれます。 低年齢児親子が安心して遊べる場の提供と保護者が安心できる居場所となるよう、工夫し、子育て支援に努めます。	保育幼稚園課

5-3 地域活動および世代間交流事業の推進

No.	事業名	事業内容・方針	担当課
1	地域間交流の促進	<p>市内外の住民が触れ合い交流できる事業を促進するとともに、在住外国人が地域住民と触れ合い交流を図り、相互理解を促す機会づくりに努めます。</p> <p>地域間交流事業は、人権総合センター等において実施しており、それぞれ特色ある事業を展開しています。</p> <p>・人権総合センター：「天の川ふれあい川まつり」、「天の川ふれあいフェスタ」</p>	人権政策課
		<p>スポーツ少年団や文化クラブなどを通じて、交流試合や成果発表会などの機会により、市内外の地域間交流を展開し、草の根の交流を目指します。</p>	生涯学習課
2	異年齢交流事業	<p>全ての保育所や認定こども園において、異なる年齢層との遊びから、また地域の高齢者との交流を通して体験学習を重ねる異年齢交流事業を引き続き実施します。</p>	保育幼稚園課
3	合宿体験型事業	<p>公民館事業、米原市子ども会育成連合会事業、自治会単位などにおいて通学合宿事業や民泊体験事業、キャンプ事業が実施されており、これらの子どもの体験事業を推進します。</p>	生涯学習課 子育て支援課
4	田んぼの学校推進事業の実施	<p>田植えから稲刈り、収穫までの一連の農作業をし、さらに収穫した米を調理して食すまでを子どもたちで体験します。食べ物の大切さや農業への親近感を高めることを目的とした体験型の総合学習事業を進めます。</p>	農政課
5	緑の少年団の育成	<p>次世代を担う子どもたちを対象にして行う、森林学習活動、地域での奉仕活動、野外レクリエーション活動に対して助成を行います。</p>	林務課
6	子ども会活動への支援	<p>米原市子ども会育成連合会と連携しながら、キャンプ事業、ジュニアリーダー育成事業、各支部活動事業、単位子ども会事業など各種活動事業を展開します。</p>	子育て支援課
7	文化少年団の育成	<p>子どもたちが中心となって行う文化的な活動を行う団体の育成を促します。</p>	生涯学習課
8	公民館活動の充実	<p>それぞれの施設の特徴と個性のある取組を支援するとともに、指定管理者と協力しながら、子どもの居心地の良い場所づくりを進めます。</p>	生涯学習課
9	子どもを支える人権のまちづくり	<p>地域の子どもやその保護者たちを対象として、自然体験活動や創作活動など交流活動の場を提供することで、子どもたちに生活習慣や規律意識などを育ませ、生活や学力を保障する取組を展開します。</p> <p>子どもを支える人権のまちづくり（交流活動事業等）は、人権総合センター等において実施しています。</p> <p>・人権総合センター：「親子交流体験事業」、「地域間交流自然体験教室事業」など。</p>	人権政策課

No.	事業名	事業内容・方針	担当課
10	幼児と高齢者の交流	異年齢交流事業として各園で取り組んでいます。保育所などに高齢者を招いての交流会、また近くの高齢者施設や地域の高齢者サロンの訪問などを行います。	保育幼稚園課
11	ふれあいいきいきサロン	各自治会において開催されている地域サロンの中で高齢者が生きがいを持って生活が営まれ、子どもたちとの交流など工夫した内容で取組が行われるよう米原市社会福祉協議会へ支援を行います。	くらし支援課
12	青少年と高齢者の交流	米原市シルバー人材センターが環境に関する事業として、清掃登山や、河川清掃を通じ小学生と共に環境について考える取組や、子育てに関する事業も実施されています。また、地域の一人暮らし高齢者と小学生との交流（訪問・通信）の実施を検討します。	くらし支援課
13	スポーツ少年団の育成等	自然に親しむ事業や交流会など種目を越えた交流や団員相互の活動の活性化を図るとともに、各種大会への派遣と奨励助成を行います。	生涯学習課
14	幼児、児童向けスポーツ教室の充実	スポーツアドバイザーによる出前講座や総合型地域スポーツクラブによる体験教室など、幼児、児童向けの教室などを充実して参加を促進します。	生涯学習課
15	総合型地域スポーツクラブの充実	いつでも誰でも気軽にスポーツを楽しむことができ、スポーツを通じて健康で明るい生活、仲間づくり、地域づくりを目指していきます。子どもから高齢者までを対象に様々な教室を開講します。 地域・会員のニーズを踏まえた魅力あるスポーツメニューの提供や体験プログラムの開発を行い、新たな会員を取り込むとともに、会員の定着を図ります。 ・カモンスポーツクラブ ・いぶきスポーツクラブ ・MOSスポーツクラブ ・近江スポーツクラブ	生涯学習課

5-4 次世代の育成と地域への定着の促進

No.	事業名	事業内容・方針	担当課
1	保育体験の充実	中学校の技術家庭科を中心に、幼児の成長や家族・家庭に関する学習を進める中で、人間が心身ともに成長し、家族の一員としての役割を果たすことの意義や周囲の人々との人間関係の大切さなどを理解し、より良い生活を主体的に工夫できる能力と態度を育てることをねらいとした授業を、各学校の特質に応じた内容・方法により実施していきます。	学校教育課
2	職場体験の促進	中学校2年時において5日間以上の職場体験を実施し、働く大人の生きざまに触れたり、自分の生き方を考えたりする機会を与え、自分の進路を選択できる力や将来社会人として自立できる力を育てていきます。	学校教育課
3	男女共同による子育て意識の醸成	男女を問わず、全ての人々の人権が平等に尊重され、差別や偏見のない社会を築くために、人権教育・啓発の重要性を認識し、全市民、特に次世代を担う子どもたちを対象に積極的な意識啓発を行います。	人権政策課
4	結婚相談の実施	明るく住み良い家庭をつくり、未来につながるまちづくりを進めるため、未婚者に結婚相手のあっせんを行うなど、結婚相談を実施します。 「ふれあいパーティー」などの出会いの場を提供し、成立件数の増加につなげます。	子育て支援課

第5章 量の見込みと提供体制

- 1 教育・保育提供区域**
- 2 幼児期の教育・保育の量の見込みと提供体制**
- 3 地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと提供体制**

第6章 計画の推進

- 1 計画の点検・評価**
- 2 子ども・子育て審議会**
- 3 関係機関との連携**

資料編